週刊 YEARBOOK

1910
明治43年

日録20世紀

12|15
平成10年12月15日発行
(毎週1回火曜日発行)
第2巻第47号 通巻90号
平成10年8月21日第三種郵便物認可
¥560
講談社

でっちあげ!
幸徳秋水と「大逆事件」

御船千鶴子"千里眼"
超能力実験のカラクリ

「ハレー彗星大接近」で
世界中が大パニック!

「韓国併合条約」調印!

1910年代は「土地よこせ」、20年代は「米よこせ」、そして「人よこせ」「命よこせ」……
「大韓帝国」の名が消滅し“日帝36年”がスタート
「韓国併合条約」調印！

▲韓国併合時の統監府首脳。前列中央が寺内統監。統監府は韓国の各部局に日本人顧問をおき、韓国の内政に関与、併合への準備を進めた。

明治四三年八月二二日、厳戒体制の中、「韓国併合条約」の調印式が行われた。これをもって、「大韓帝国」の名が歴史上から消滅した。「日帝三六年」が始まったのである。日本は昭和二〇年までの三六年間にわたって、ある時は土地や食糧の補給地として、さらに日中戦争や太平洋戦争が勃発すると、労働者や兵士の兵站基地として、韓国を収奪し続けた。

秘密裏に行われた韓国併合の調印式

「日本による韓国併合のプロセス、民族の意志や独自性を抹殺する統治の手法には、合理性のかけらもなかった。条約締結の様子はそれを象徴していると言っていいでしょうね。だいたい、韓国のような近代国家が植民地にされるのは、歴史上でも非常に稀なケースなんです」

海野福寿・明治大学文学部教授がそう語る「韓国併合に関する条約」の調印式が行われたのは、明治四三年八月二二日。

この日、午後二時から漢城（現・ソウル）の王宮・昌徳宮で開かれた「御前会議」で条約締結の全権を第二六代李朝皇帝・純宗（三七）から委任された李完用総理（五二）は、趙重應農務大臣をともない、午後四時には、同じ漢城にある韓国統監府を訪れていた。

李総理が純宗の全権委任状を持参した相手は、五月に陸軍大臣の肩書のままで第三代韓国統監に就任していた寺内正毅（五八）や山県伊三郎政務総監（五一＝山県有朋の養嗣子）ら四、五人の日本側代表。寺内統監が委任状を確認すると、両者は即座に「韓国併合条約」二通に署名捺印した。外交交渉もなければセレモニーもない。ましてや、通常は批准後に行う皇帝の裁可も、委任という形で事前に片づける異例づくしの調印だった。

条約の中身は――第一条は、韓国皇帝が韓国に関するいっさいの統治権を完全かつ永久に日本国皇帝に譲与し、第二条で日本国皇帝がこの譲与を受諾して、韓国の日本併合を受諾することを明記。さらに第三・四・五条では、合併に勲功のあった韓国皇帝・皇族、一般韓国人に特別の称号や金銭などの恩恵が与えられることをうたっていた。つまりは、純宗が申し入れた併合を明治天皇が承諾する形式をよそおっていたのである。

列強や韓国の国民感情を考慮し、調印は極秘にされていたが、漢城市内は二〇歩ごとに歩哨が立つという警戒ぶり。厳重な警備の裏には、植民地化のレールを敷いた伊藤博文初代韓国統監が前年一〇月、独立運動家の安重根に射殺された事情もあった。

八月二九日に「韓国併合条約」が公布されると、日本国内では日の丸が掲げられ、人々は記念の花電車に先を争って乗車。日比谷公園などでは、夜まで提灯行列が練り歩く、乱痴気騒ぎが続いた。一方、併合に反対した日本人は、「朝鮮人民の自由独立、自治の権利を、帝国主義的政策を以て侵害するは万国平民共通の利益に反する」との決議をした社会主義者・幸徳秋水（翌年、「大逆事件」で処刑）といった一部の知識人のみ。大多数のマスコミ、一般庶民は、「大韓帝国」消滅を無邪気に喜んだのだった。

▲「韓国併合条約」調印が行われた韓国統監室での寺内正毅統監。徹底した武断派で、憲兵警察政治を敷き、韓国の独立運動を弾圧した。

▲韓国側の全権・李完用首相。

▲伊藤の後任統監・曾禰荒助。

▲日韓協約の際の外相・朴斉純。

▲憲兵警察制度を導入した明石元二郎。

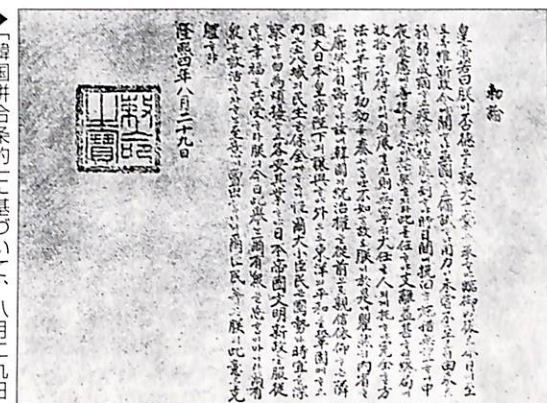
▲「韓国併合条約」により、韓国最後の皇帝となった純宗。併合後は李王と称された。

◎表紙　「大逆事件」で検挙され、明治44年絞首刑となった幸徳秋水。　中村市立図書館　山沖徳生提供

1910年代は「土地よこせ」、20年代は「米よこせ」、
そして「人よこせ」「命よこせ」……
「大韓帝国」の名が消滅し〝日帝36年〟がスタート

「韓国併合条約」調印！

◀併合後、日本は土地を取り上げる土地調査事業、米を収奪する産米増殖計画を進めた。写真は米の集荷。

▶併合を積極的に進めた韓国の親日御用団体・一進会会長の李容九（右端）と、黒竜会幹部・内田良平（左端）。

▶「韓国併合条約」に基づいて、八月二九日に韓国で出された勅諭。

一貫して推進された「武断政治」の横暴さ

明治四三年一〇月一日に最高統治機関として新設された「朝鮮総督府」の初代総督についた寺内は、すでに同年六月、憲兵が警察も兼ねる「憲兵警察制度」を発足させていた。さらに併合後は、国号を「朝鮮」に変更し、皇帝の称号を「王」に格下げ、言論・出版の自由を禁じる「武断政治」を断行。「皇城新聞」などの反日的な新聞・雑誌を「出版法」（明治四二年制定）によって廃刊していく。

「小早川（隆景）、加藤（清正）、小西（行長）が世にあらば、今宵の月をいかに見るらむ」――寺内が豊臣秀吉の朝鮮出兵で先鋒をつとめた武将の名をあげ、こう歌ったのはつとに有名な話である。

その「武断政治」の象徴が、明治四三年三月に始まる「土地調査事業」だった。総督府は韓国経済の命脈とされる農地を獲得するため、農民の法的無知につけこんで難解な申告手続きを強制。未申告者や手続きミスのあった人々から所有権を剥奪する。結果、大正七年までに全農家の三・三%にすぎない地主の手に、全耕地面積の五〇・四%が渡った。土地を「国有地」として奪われた農民は、入植した日本人の小作人や流民に転落した。

日本人支配者の傲慢ぶりをものがたる逸話がある。地方視察に出向いた第六代の宇垣一成総督に、湯村辰二郎咸鏡南道知事が原始林を指さし、「閣下、あの山に別荘でもお建てになったら？」と話しかけ、「一万坪買っておきましょう」と続けた。すると宇垣は、「一万坪？　我輩なら百万坪いるわい！」と、こともなげに答えたという（井上則之『朝鮮米と共に三十年　湯村辰二郎半生の記録』）。

こうした横暴な政策は、大正八年八月に第三代総督についた斎藤実海軍大将（当時・六〇歳）による「文化政治」（同年一〇月より憲兵警察の廃止、韓国人官吏の任用などを実施）という看板のかけ替えはあっても、内実は変わらなかった。

たとえば、第一次世界大戦以降、食糧難におちいった日本へ輸出するため、総督府は大量の朝鮮米を増産。それは昭和七年の約二一九万石から一一年の約八七五万石へと四倍増にもなった。ところが、草根で飢えをしのぐ絶糧農家が韓国で続出していた惨状は無視したのである。

「日本支配の特徴は、一九一〇年代が『土地よこせ』、一九二〇年代は『米よこせ』でした。それが、三〇年代後半になると、『人よこせ』『命よこせ』が加わります。つまり、日中・太平洋戦争の勃発で、日本は朝鮮を〝大陸兵站基地〟に位置づけた。そこで〝皇民化政策〟を行い、朝鮮の労働者（八〇万～一〇〇万人という説も）を樺太（サハリン）や日本各地の鉱山・炭鉱などの作業場へ強制連行し、さらに最初は志願という名目で、後には堂々と徴兵して多くの若者（約三五万人、学徒兵約五〇〇〇人）を戦地に送りこみました」

と滋賀県立大学の姜徳相教授は語る。

併合時、一〇〇〇人以下だった在日朝鮮人は、昭和二〇年八月には二三六万五〇〇〇人～二五〇万人にのぼった。

ところが、総督府は敗戦後も権力委譲を拒み、三六年間の実態を記した書類の隠滅さえはかったと言われる。その支配が終わったのは、連合軍が第八代・阿部信行総督に統治委譲文書への調印を命じた昭和二〇年九月九日――総督府庁舎の日章旗が引き降ろされた瞬間だった。

▼「韓国併合条約」が調印されると、日本中が祝賀に包まれた。写真は、8月29日、東京で行われた提灯行列。　毎日新聞社

「併合」後の日韓関係略史

韓国併合後、朝鮮総督府は一貫して朝鮮の人々を異民族としてではなく、異民族の日本人化、つまりは同化政策によって支配した。

明治43年8月　「韓国併合条約」調印。「土地調査事業」「憲兵警察制度」、朝鮮人資本の成長を抑制する「会社令」などが実施される。

明治44年6月　山林を国有化する「森林令」公布。また8月には、日本語普及を目的とした「第1次教育令」が公布される。

大正8年8月　斎藤実新総督への爆弾テロが発生。犯人の姜宇奎は翌年死刑に。

大正9年　「産米増殖計画」開始。

大正12年9月　関東大震災後の混乱にまぎれ、在日朝鮮人6000人余が殺害される。

大正14年4月　「治安維持法」が朝鮮で適用。

昭和7年4月　抗日組織「韓人愛国団」の上海爆弾テロで、重光葵中国公使が右足を失う。

昭和11年8月　「日章旗抹殺事件」が発生。ベルリン五輪でマラソンの金メダル選手・孫基禎の胸の日章旗を消した写真を掲載した「東亜日報」に無期停刊処分。

昭和13年3月　「陸軍特別志願兵制」実施。

昭和14年11月　「創氏改名」公布。

昭和18年10月　「学徒兵制」実施。

昭和19年5月　「徴兵制」実施。

昭和20年8月　広島への原子爆弾で、在日朝鮮人労働者、約7800人が死傷。

◀韓国での小学校授業風景。「併合」により、日本語が公用語となった。

▲「大逆事件」の首謀者にされた幸徳秋水と、管野スガ。明治42年9月22日撮影。当時、二人は同棲生活を送っていた。 近藤千浪提供

長野県の僻村で爆弾製造犯が逮捕されたのをきっかけに、各地の社会主義者・無政府主義者が一斉に検挙された。容疑は明治天皇の暗殺をくわだてた「大逆罪」である。非公開一審制の大審院刑事特別法廷は被告二六人中、幸徳秋水ら二四人に死刑判決を下し、一週間たらずで減刑組をのぞく一二人に死刑が執行された。

“現状打破”のために天皇暗殺計画を企図

「二六歳で投獄され、四九歳で出獄した自分は、冤罪を晴らすためにだけ余生を生きる。そうでもしなければ、死んでも死にきれない」

昭和二一年一月、「大逆事件」二六被告中ただ一人の生存者である坂本清馬（当時・六一歳）と会った東京都立大学・立命館大学の塩田庄兵衛名誉教授は、坂本のこんな発言を聞き、「戦慄した」と語る。坂本をしてこの血の噴き出しそうな言葉を吐かせた「大逆事件」とは、いかなる冤罪事件だったのだろうか——。

明治四三年五月一七日夜、東京・千駄ケ谷の雑誌「自由思想」編集・発行人である管野スガ（二八）宅を古河力作（二五）と新村忠雄（二三）が訪れた。表向きの理由は、前年の「自由思想」出版事件（即日発禁）で服役するスガの激励であったが、実は、もうひとつの理由があった。一一月三日の天長節に予定している天皇暗殺計画の確認であり、その際の爆裂弾投擲の順番を決めることである。

彼らはあせっていた。明治四一年の「赤旗事件」で堺利彦（当時・三七歳）、山川均（当時・二七歳）、大杉栄（当時・二三歳）、荒畑寒村（当時・二〇歳）ら一二人の同志が獄につながれ、社会主義運動の中心であった平民社も閉鎖に追いこまれた。現状を打破するには、天皇に対するテロしかないというのが彼らの認識であった。

籤引きの結果、一番目がスガ、以下、古河、新村、機械工・宮下太吉（三四）の順となった。スガは一番籤を引いたことで機嫌がよかった。が、新村のもらした「宮下が女に計画をほのめかしたらしい」とのひとことが気になった。

スガの勘はあたっていた。同じ一七日、長野県松本警察署明科駐在所の小野寺巡査は、明科製材所の宮下太吉という社会主義者が、部下の新田融にブリキ缶をたくさん作らせたとの情報をつかんだ。

松本署の動きは早かった。五月二五日、明科製材所の機械室に隠してあった爆弾の材料（鶏冠石と塩酸カリ）とブリキ缶を押収するとともに、宮下を逮捕。また、同日のうちに、かねて宮下との交際で目をつけていた長野県屋代町（現・更埴市）の新村とその兄で町の収入役をつとめたこともある善兵衛を逮捕、二八日には古河力作も逮捕した。

これがいわゆる「大逆事件」の発端だが、この段階での逮捕容疑は「爆発物取

▲この年の12月中旬、馬車で大審院に向かう被告たち。16回の公判は一人の証人喚問も許されず、非公開で行われた。「イリュストラシオン」

▶宮下太吉（三四）。機械工として働き、社会主義に近づく。天皇も血を流す人間であることを証明するために、爆裂弾を投げる決意をする。死刑。 近藤千浪提供

▶新村忠雄（二三）。早くから社会主義の道へ。明治四二年、大石誠之助方で薬局を手伝う。管野、古河らと「大逆計画」を話し合い、逮捕。死刑。 近藤千浪提供

▶古河力作（二五）。明治三六年から園芸業に従事。四〇年頃、社会主義者となる。管野らと「大逆計画」について話し合ったため逮捕される。死刑。 近藤千浪提供

▶奥宮健之（五二）。自由民権運動のリーダー。明治四二年、「大逆計画」のことは知らずに、幸徳に爆裂弾の製造方法を教え、事件に連座。死刑。 近藤千浪提供

▶社会主義の啓蒙をはかった週刊「平民新聞」は、しばしば発禁となり、明治38年1月に終刊。2年後には日刊で発行されたが、3ヵ月でやはり発禁となった。写真は、日刊時代の社員。明治40年1月撮影。

近藤千浪提供

締罰則違反」であった。しかも、宮下、新村の取り調べにあたった長野地裁の和田良平次席検事が作成した調書には、幸徳秋水（三八）の名はまったく見られず、天皇暗殺計画の共謀者として宮下太吉、新村忠雄、管野スガ、古河力作、爆弾製造および隠匿の関係者として新村善兵衛、新田融、清水太市郎の名があげられるのみである。

無政府主義者を一網打尽 暗黒裁判で一二人に死刑

信州の一僻村で起こった事件は、その性質からただちに中央に報告された。そして、司法省民刑局長・平沼騏一郎（四二）が実質的に検察の総指揮をとることになる。平沼は国家主義的な言動で知られた人物であり、やはり国家主義的傾向の強い山県有朋（七二）や桂太郎首相（六二）と連絡を取りながら事件の方向を定めていく。この時から、初めは名前すらあがらなかった幸徳秋水が首謀者として登場してくる。五月二八日、秋水の起訴状が作られた。

「被告幸徳伝次郎他六名ハ、他ノ氏名不詳数名トトモニ、明治四一年ヨリ、至尊ニ対シ危害ヲ加エントノ陰謀ヲナシ、カツソノ実行ノ用ニ供スルタメ、爆裂弾ヲ製造シ、モッテ陰謀実行ノ予備ヲナシタルモノトス」

逮捕前から秋水の罪名は決まっていたのである。この際、何がなんでも無政府主義者の首魁である幸徳秋水をつぶしてしまおうという平沼らの意図が露骨に表れた起訴状だ。

六月一日、幸徳秋水は神奈川県湯河原で逮捕された。さらに「他ノ氏名不詳数名」が次々と逮捕されていく。和歌山県新宮で六人、熊本で四人、大阪で三人など、入獄中の管野スガ、僧侶・内山愚童（三六）を含む二六人が九月末までに逮捕された。

逮捕理由は爆発物取締罰則違反から浮浪罪にいたるまでさまざまであったが、一一月一日に三人の予審判事の意見書が大審院に提出された段階では、刑法第七三条の「皇室に対する罪」、いわゆる「大逆罪」に統一されていた。

裁判は一二月一〇日から始まった。大審院刑事特別法廷は一審のみの非公開で、一二月二九日までほぼ連日のように一六回、猛スピードで進められていく。

翌四四年一月一八日、判決が言い渡された。二四人が「大逆罪」で死刑、二人が爆発物取締罰則違反で懲役刑である。ただ、死刑犯のうち一二人は翌日、「天皇の恩命」によって無期懲役に減刑された。判決からわずか六日後の一月二四日、幸徳秋水らの死刑が市谷の東京監獄絞首台で執行された（管野スガは日没のため翌二五日に執行）。幸徳、管野、森近運平、宮下太吉、新村忠雄、古河力作、奥宮健之、医師・大石誠之助、成石平四郎、松尾卯一太、新美卯一郎、内山愚童の一二人である。

この事件に衝撃を受けた石川啄木（二四）は次のような短歌を残している。

時代閉塞の現状を奈何にせむ
秋に入りてことに斯く思ふかな

それからちょうど五〇年後の昭和三六年一月一八日、坂本清馬と刑死した森近運平の妹・森近栄子が、東京高等裁判所に対して「大逆事件再審請求の申し立て」を起こす。しかし、最高裁判所は昭和四二年七月五日、「抗告棄却」を決定した。坂本は無念を晴らすことができないまま、昭和五〇年一月一五日、この世を去った。八九歳だった。

▶明治四三年一二月一〇日、幸徳秋水らの公判が開かれた大審院前の様子。予審は一一月に終わり、一二月に入って特別裁判が開かれた。

女たちの肖像

“保護者”一平と結婚して「生まれっぱなしの童女」岡本かの子の才能開花！

稲葉真弓

代表作『老妓抄』の中で“老い”を「いよゝ華やぐ命なりけり」と言ってのけた岡本かの子（旧姓・大貫カノ）の文学には、常に生命の神秘、女の妖気が流れているが、彼女自身もしばしば“牡丹”にたとえられた。毒々しさと紙一重のあでやかさ、「奔放な生まれっぱなしの童女」とも言われた彼女は、歌人、宗教家、作家、そして恋愛にと並々ならぬ才能を発揮した。その彼女が生涯の伴侶、マンガ家の岡本一平と結婚したのがこの年、明治四三年八月のこと。かの子、二一歳、一平は二四歳だった。

かの子に一目惚れした一平が、台風で氾濫した多摩川を裸で渡り、彼女の実家・大貫家を訪れると「娘御をわあしに下さい」と夜を徹して両親を口説いたという話は、つとに有名である。当時、かの子は大貫かの子、歌野子、可能子の名で短歌雑誌に作品を発表していたが、岡本姓で発表するようになったのもこの年のことだった。

明治二二年、神奈川県高津村（現・川崎市高津区）の大地主・大貫家の長女として生まれた彼女は、無口、憂愁の性格、かと思うと一途であぶなげなところがあり、両親や兄から溺愛されて育った。短歌を始めたのは八歳の頃、兄の影響だった。

結婚の翌年、長男・太郎を出産。が、生活は不安定だった。風俗画家から脱皮できない夫への不満や彼の放蕩をめぐって争いが絶えず、夫婦生活は危機に直面していた。大正元年処女歌集『かろきねたみ』を刊行。この間、早稲田大学の学生・堀切茂雄との恋愛におちいるなど、みずから「魔界」と呼んだ精神的苦悩の時期を迎えた。かの子は一平の同意を得て堀切と同居。この関係は四年ほど続くが、堀切の病死を機に精神の救いを求めてキリスト教に親しむ。しかし、やがて仏教思想へと傾倒。これが、彼女の仏教家としての出発となった。

大正六年には慶応の学生・恒松安夫が暮らしに加わり、一三年には外科医・新田亀三との恋愛も生じて一平、恒松、新田の三人と共棲。常識でははかれない関係だが、一平は彼女の保護者に徹し、すべてを黙認。昭和四年、太郎を含む“家族五人”は三年にわたる欧州への旅に出た。この旅がかの子の才能を開花させ、帰国後の昭和一一年、「鶴は病みき」で文壇デビュー、翌一二年「母子叙情」「川」「花は勁し」などを次々と発表した。しかし、一四年二月、三度目の脳充血で死去。わずか四年の作家生活だったが、“華”にふさわしい終幕だった。

▶仏教研究家としての著作活動も行った。

勝者・敗者

明治人らしい海外雄飛！関西横綱の大碇紋太郎英国で相撲ショーを巡業

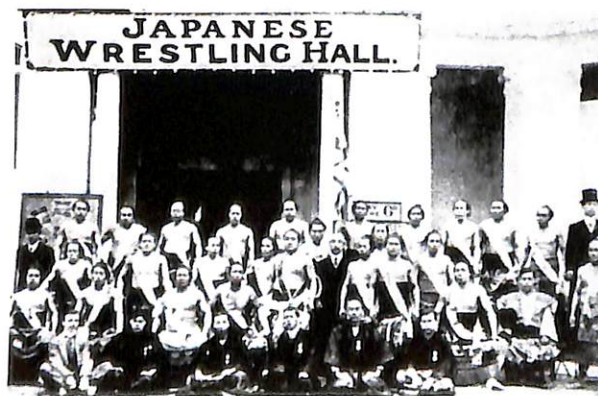
阿部珠樹

明治時代には、今から思うと、無謀としか思えないようなやり方で、日本を飛び出し、海外に雄飛していった人々が少なくない。あやしげな壮士芝居を引っさげて、ヨーロッパに乗りこみ、大人気を博した川上音二郎・貞奴夫婦。象つかいなどさまざまな職業につき、度胸と天才的な語学力で押しきって大英博物館で勉学に励んだ民俗学の南方熊楠など。いずれも、一筋縄ではいかない人たちだった。

スポーツの世界にも、こうした人々に劣らぬ大胆なやり方で、海外雄飛をやってのけた男がいる。名を大碇紋太郎と言う。その名のとおり、力士である。

本名、日比紋太郎。明治二年二月二二日、二並びの日、愛知県知多郡に生まれた。明治一八年夏場所初土俵、二六年初場所に入幕。入幕後は向かうところ敵なしで、明治二七年夏、小結に昇進するまで四場所連続負け知らずだった。顔は「おかめ、ひょっとこ」のおかめそっくり。なんとも愛敬があったが、相撲っぷりの方はなかなか抜け目がなく、特に、押しのうまさには定評があった。

明治二八年には関脇から大関に昇進。順風満帆の出世であった。ところが、おかめ顔の大碇、私生活での素行が悪く、勝ち越したにもかかわらず、番付を下げられるなどバッシングを受ける。そんな扱いを受けるぐらいならと開き直った大碇は、京都に脱走、五条家から横綱免許を受けて、関西で明治三一年まで土俵をつとめる。

しかし、元来がひとつところにおさまりきれない性格。この年、明治四三年、すでに土俵を退いていた大碇は、英国で日英博覧会が開かれるという知らせを聞いて、何を思ったか英国に渡り、各地で相撲ショーの巡業を始めた。異形の相撲レスラーに英国人は大喝采。しかし、もの珍しさも最初のうちだけで、次第に客が入らなくなる。だが、日本に帰ろうにも帰る場所のない大碇は、糸の切れた凧のように世界をさまようほかなかった。最後は、放浪のはて、南米で客死したと伝えられている。

▲ロンドンの博覧会場で、名入りたすきをかけた大碇の一行。写真中央（背広姿の人の左）が大碇。 毎日新聞社

森永製菓提供

▼横浜に相撲常設館誕生（1月28日）従来、小屋がけだった稽古相撲を、常設館で興行。大入りで開場したが、人気者の常陸山、駒ケ嶽が欠場、観衆を落胆させた。

毎日新聞社

◀米国から大観光団入京（1月6日）1万7000トンの客船「クリーブランド号」で670人が到着、京都・日光などを見物。写真は新橋で人力車に乗る一行。

毎日新聞社

▲菓子の森永商店、株式会社へ（1月）定款作成。前年、芝・田町工場を機械化、量産態勢に入っていた。写真は全従業員。右から二人目が森永太一郎社長。

▼カルカッタの大谷光瑞一行（1月1日）前年、第2次隊の報告を受け、さらに橘瑞超らの第3次隊を楼蘭、チベット、敦煌などに派遣。写真前列右から二人目が大谷(35)。

「太陽」

◀東京電灯会社、電気自動車を購入（1月）社長・佐竹作太郎(左)が、米国のベーカー社製を日本で初めて社用に常用。一度の充電で40マイル走行、安全・廉価だったが、重量・蓄電が難点だった。

佐々木烈「明治の輸入車」／日刊自動車新聞社提供

ROGER-VIOLLET／ユニフォトプレス

▲パリ、冠水（1月20日）未曾有の暴風雨のためセーヌ川が氾濫、フランス各地に大洪水が発生した。写真はパリを代表する繁華街の、サンラザール駅周辺。町が湖と化し、渡し船が交通機関となった。

明治43年1月

1（土）●米国・テネシー州で禁酒法が発効。●島崎藤村、「読売新聞」に「家」を連載開始。
2（日）●米国の世界一周大観光団・六七〇人が神戸着。
3（月）●英で炭鉱労働者が、八時間労働を要求しスト。
4（火）●政府は外国人の土地所有認める方針と新聞に。
5（水）●伊藤博文暗殺事件で、韓国謝罪特使が東京着。
6（木）●米国務長官、満州（中国東北部）全鉄道の中立化案を新聞発表。機会均等・政治性排除など。
7（金）●五分利つき公債が騰貴、額面の一〇〇円実現。
8（土）●全国農家の総戸数は約五四一万戸、農業教育を受けたものが急増している、と新聞に。
9（日）●秦政次郎らの帝国育英義会と、矢野恒太の日本育英会が合同、拡大をはかる、と新聞に。
10（月）●京都御所の防火のため、消火用水道設備の設置計画が進行中、と新聞に。
11（火）●通信機器の発達で、新聞が特ダネを占有できる時代ではなくなった、と新聞に。
12（水）●仏のポーラン、約一三〇〇㍍の飛行高度記録。
13（木）●インド五州で政情不安、扇動的な集会を禁止。
14（金）●陸軍、気球格納庫を東京に創設と新聞に。
15（土）●旭硝子、板ガラスに菱印の商標を使用開始。
16（日）●大阪紡績の女工、貸し売り廃止に反対のスト。
17（月）●米の景気、製鉄など恐慌以前に回復と新聞に。
18（火）●群馬県高崎警察署、無免許歯科医の摘発開始。
19（水）●政友会大会、地租軽減で国力の涵養をと声明。
20（木）●仏で異常気象、国土の半分が洪水状態。
21（金）●日本弁護士協会、人権蹂躙問題の調査を決定。
22（土）●明治四〇年のタバコ値上げ直前、専売局が販売人に二八四万円の不正売り渡し、と新聞に。
23（日）●神奈川県逗子開成中学のボート部員ら一二人、鎌倉・七里ケ浜で遭難死。
24（月）●関東・東北・四国など一〇県の代議士二〇人、鉱毒研究会を組織し、政府の鉱毒対策を追及。
25（火）●京都府一四六カ村の農民、地租軽減請願書を衆議院議長に提出（同様の請願書提出が続く）。
26（水）●桂太郎首相兼蔵相、銀行家を招き、内国債借り換え（五分利つきから四分利つきへ）を交渉。
27（木）●前年の出版物の発禁は一四四件、と新聞に。
28（金）●東京大相撲の有力力士が、八百長はしないとの一札を協会に入れた、と新聞に。
29（土）●韓国併合に反対する韓国人が、平安道で蜂起。
30（日）●東京・深川の芸妓屋で、掃除していた女中が短銃を発見、玩具と間違えて腹部を撃ち重体。
31（月）●品川駅拡張のため海岸を埋め立て、と新聞に。

ニュース・ファイル

1910

フォト＋日録で再現する365日

八月、東日本を未曾有の水害が襲った。政府は治水調査会を設置、抜本策をさぐる。一方で、鉄道広軌化が論議され、電気・ガス事業も進捗、インフラ整備が急速に進んだ。そんな中、「大逆事件」「韓国併合」と、日本の帝国主義化も一段と強まってゆく。

◀徳川好敏大尉、飛行術を学ぶ（4月）日野熊蔵大尉と仏留学。練習機は2台しかなく、滞仏中の飛行は合計1時間にすぎなかった。写真はファルマン機に乗る大尉。手前は教官。12月、二人は日本初飛行に成功した。

毎日新聞社

▲吉田茂(31)、ローマに着任(2月18日)前年、イタリア大使館の3等書記官に任ぜられ、領事官補だったロンドン大使館から転勤。右端が妻と長女。妻は、枢密顧問官・牧野伸顕の長女だった。

「グラヒック」

▲蹴鞠、復活(2月28日)恩賜保存会が東京・華道会館で発会式。鎌倉時代に体系化された貴族の遊びが、蘇えった。左から二人目が、将軍家御師範家の末孫・飛鳥井雅廣。

文化庁提供

▼近衛師団司令部が竣工(3月)宮城・北の丸に、天皇親衛部隊にふさわしい重厚な姿を誇った。設計・田村鎮。重文。現在、国立近代美術館工芸館として公開。

▶月刊誌「雄弁」創刊(2月11日)野間清治(右端、31)が東大教授らの講演をまとめ、大日本雄弁会(講談社の前身)から発行。官学・私学の雄弁部の媒介誌となった。写真は東京・団子坂の編集室。

▲清国、チベットに武力進駐(2月25日)牽制し合う英・露の間隙をつき、四川軍が首都・ラサを砲撃。ダライ・ラマ13世(写真)はインドへ逃走した。

▼山田耕作(23)、ドイツへ留学(2月24日)東京音楽学校在学のままベルリン王立音楽学校に入学。ブルッフらの指導を受け、後の世界的活躍の基礎を築いた。

明治43年2月

1(火)●塩野義三郎商店、塩野製薬所を完成。

2(水)●警視庁は下宿屋のランプ使用を厳重に取り締まる方針、と新聞に。

3(木)●石油四社が「価格安定」へ販売協定。需要の三五㌫を日本側、六五㌫を外資系が供給。

4(金)●東京音楽学校声楽科で成績抜群の山田耕作が、在学のままドイツへ留学する、と新聞に。

5(土)●大阪の電鉄市内乗り入れに関し疑獄発覚。

6(日)●水戸の歩兵連隊などでチフス発生、外出禁止。

7(月)●大阪相撲の力士、協会の体質など嫌い、東京相撲への移籍が続く、と新聞に。

8(火)●政府と政友会が妥協。政府は地租八厘減を容れ、政友会は官吏増俸二五㌫を認める。

9(水)●日清郵便協約、調印。

10(木)●大阪友禅染職工二〇〇〇人、賃下げ反対スト。

11(金)●大日本雄弁会(現・講談社)の野間清治、弁論雑誌「雄弁」を創刊。

12(土)●中国革命同盟会の黄興・胡漢民ら、広東の「新軍」を中心に蜂起。

13(日)●外相官邸で、日英同盟八周年祝賀会を開催。

14(月)●旅順地方法院、伊藤博文暗殺の犯人、韓国人・安重根に死刑判決(3月26日、執行)。

15(火)●千葉県南部に電灯会社設立の動き、館山周辺に供給予定、と新聞に。

16(水)●広東の暴動で、軍艦「宇治」を急派、と新聞に。

17(木)●沿岸漁業者、トロール漁業への抗議大会開催。

18(金)●逓信省は、郵便日付印や「〒」マークとまぎらわしい図案の使用を禁止する、と新聞に。

19(土)●栃木県警、サッカリン混入の醤油を摘発。

20(日)●水戸市会の無能ぶりにあきれた新聞記者が、代表を市会議員選挙に送る決定、と新聞に。

21(月)●観梅シーズンを控え、水戸市の偕楽園近くに長さ三二四㍍の仮ホームが建設される。

22(火)●埼玉県川越町で道路工事中に古墳発見、工事を中断して調査中、と新聞に。

23(水)●新炭の問屋組合と生産者組合が、運賃低減・山林払い下げ価格引き下げを要求、と新聞に。

24(木)●東京の美術商・中村作二郎、上野・不忍池畔に、桜一〇〇〇本の植樹を開始。

25(金)●清国軍がチベットへ進駐。

26(土)●名古屋で興行中の大阪相撲、不入りで途中打ち切り、と新聞に。

27(日)●川上音二郎が大阪に帝国座を創立、開場式。

28(月)●外相、各国駐日代表に、韓国併合方針を通知。

「グラヒック」

証言・あの日この日

佐久間勉(30)

4月15日(金)〈小官ノ不注意ニヨリ、陛下ノ艇ヲ沈メ部下ヲ殺ス、誠ニ申訳無シ、サレド艇員一同死ニ至ルマデ、皆ヨクソノ職ヲ守リ、沈着ニ事ヲ処セリ、我等ハ国家ノ為ニ職ニ斃レシト雖モ、唯々遺憾トスル所ハ、天下ノ士ハ之ヲ誤リ、以テ将来潜水艇ノ発展ニ打撃ヲ与フルニ至ラザルヤヲ憂フルニアリ、希クハ/将来潜水艇ノ発展研究ニ全力ヲ尽クサレンコトヲ〉(佐久間勉『遺書』)

海軍は日露戦争中から潜水艇の研究に着手し、佐久間勉海軍大尉を艇長とする「第6潜水艇」は、最初の国産艇として神戸の川崎造船所で建造されたものだった。しかしこの日、広島湾で実験中に遭難、艇長以下15人の乗員全員が殉職した。ところが、艇長が死の直前まで克明に書き残したこの遺書が艇内から発見され、大きな話題になった。夏目漱石も感動したという。(山崎行太郎)

松坂屋提供

▼新橋駅に有料トイレ(3月1日)前年完成の、ルネサンス式駅舎東隅に新設。入り口横の穴に2銭銅貨を入れるとドアが開き、客が出ると係が鍵を閉める仕組み。西洋式・和式があった。

「グラヒック」

▲いとう呉服店、百貨店に脱皮(3月1日)名古屋に、鈴木禎次設計で西欧風の近代的店舗を新築(後の松坂屋)。江戸初期創業の老舗が、大きな転換をとげた。

「イリュストラシオン」

▶ロックフェラー、財団認可取り下げ(3月3日)「汚い事業家」との世評払拭のため、米上院に慈善団体設立を申請。しかし、傘下石油会社の贈賄疑惑で断念。

▶博多に福博電車(3月9日)電力王・福沢桃介と松永安左ェ門が会社設立。九州沖縄8県の共進会開催2日前に、医科大学前—西公園、呉服町—博多駅間が開通。近代都市の幕開けとなった。

▲世界初の水上機誕生(3月28日)フランスのアンリ・ルファーブルが製作した「イドラビオン号」が、マルセイユ近くのラメド港の海面上を滑走し、離水。約500メートルの飛行に成功した。

明治43年3月

1(火)●夏目漱石、「朝日新聞」に「門」を連載開始。

2(水)●閣議、米英清の錦璦鉄道計画に参加方針決定。

3(木)●皇族の序列を決める「身位令」など公布。

4(金)●最近「紳士」に流行のシルクハット、価格は九円から二九円、と新聞に。

5(土)●東京で非行学生グループが横行、婦女暴行・小学生からの金品強奪など相次ぐと新聞に。

6(日)●計画中の東京・三鷹天文台関係者、付近道路の幅員を、体面上、一〇間とするよう要請。

7(月)●京都の料飲業者ら、仲居税撤廃運動を起こす。

8(火)●衆議院、農業保護を目的とする関税定率法改正案を議決(22日、貴族院可決成立)。

9(水)●明治四三年度予算案成立。歳入歳出とも約五億三〇〇〇万円、軍事費は約三〇㌫。

10(木)●箕面有馬電気軌道、梅田—宝塚間で開業。

11(金)●京阪電気鉄道運賃認可、一区間五銭。

12(土)●房総沖で、漁船一三三隻が暴風雪により遭難、約二〇〇〇人が死亡。

13(日)●憲政本党・又新会などが大合同、代議士九二人で立憲国民党を結成。

14(月)●韓国統監府、併合を前に土地調査を開始。

15(火)●米国で、プロドライバーのオールドフィールドが、ベンツに乗り時速二一二㌔を記録。

16(水)●名古屋で、関西府県連合共進会開催。

17(木)●日本女子大の井上秀教授、欧米女性の社会進出を日本も習うべきと視察の感想述べる。

18(金)●家畜市場法公布。市場開設・業務など法制化。

19(土)●横浜で大火、五四二戸焼失。

20(日)●東京・銀座に「発明館」完成。

21(月)●新聞雑誌通信記者の春秋会、東京で発会式。

22(火)●滞英中の木下季吉、α粒子の写真作用を発見。

23(水)●本願寺法主の大谷光瑞、インドに亡命中のダライ・ラマにカルカッタで会見、と新聞に。

24(木)●清国の杭州で、民衆が日本商店七戸を破壊。

25(金)●義務教育で学ぶ漢字は一三六〇字、と新聞に。

26(土)●電気測定法公布。オーム・ボルト・ワットなどの国際単位使用を規定。

27(日)●東武鉄道、浅草—伊勢崎間全通。

28(月)●文部省、小樽高等商業学校・秋田鉱山専門学校・米沢高等工業学校などの新設を決定。

29(火)●仏、保護関税法・通商保護法を制定。

30(水)●東京で、第一回府下中学校野球大会開催。

31(木)●助産婦一人当たり出産数は全国平均六〇人だが、栃木県は助産婦不足で一五〇人、と新聞に。

WPS

▲**秦佐八郎(37)、梅毒の特効薬を発見(4月19日)** 独内科学会で、師のエールリヒと「サルバルサン」を紹介。待望の新薬で、1940年代のペニシリン実用化まで使われた。右が秦。

◀**東京市、ワシントン市に桜を再寄贈(4月)** 前年贈った苗木がうまく根づかず、2000本をあらためて贈った。東京市長・尾崎行雄もこれを機に渡米。写真は自邸を出発する尾崎と家族ら。

▼**文芸雑誌「白樺」創刊(4月)** 学習院出身の武者小路実篤、志賀直哉らが、反自然主義を掲げて発行。写真は同人。前列左から二人目・志賀、後列左端・実篤。14年間存続し、多方面に影響を与えた。

◀**聖心女学院、開校(4月11日)** カトリックの女子修道会・聖心会が、東京・芝白金に創立。後、聖心女子大学の前身となる専門学校を開校。写真は英語の授業。

▶**仏、モロッコ南部を占領(5月25日)** モロッコ進出をくわだてるドイツに、譲歩しない姿勢を明確にした。名目は「反乱」制圧。まがりなりにも独立を維持してきた同国の主権は、完全に無視された。

「イリュストラシオン」

京阪電鉄提供

▲**京阪電車開通(4月15日)** 京阪電気鉄道が、京都・五条—大阪・天満橋を結んだ。これで京都—大阪間は、淀川の西岸を走る東海道線と2路線になった。

明治43年4月

1(金)●新潟医学専門学校、開設。
2(土)●清国で、中国革命同盟会の汪兆銘ら、摂政・醇親王暗殺をはかり、失敗。
3(日)●東京フィルハーモニー会、第一回演奏会。
4(月)●日清両国、鴨緑江架橋に関する覚書に調印。
5(火)●富士—身延間に鉄道建設計画、と新聞に。
6(水)●韓国人に日本の法律を適用する勅令公布。
7(木)●神戸港で艀に満載のダイナマイト三五〇〇個が爆発、約二万戸に被害。
8(金)●指紋利用で、累犯発見の効果が顕著と新聞に。
9(土)●長谷川時雨、「羽左衛門に五〇金出して関係」との記事を載せた週刊「東京」を誹毀罪で告訴。
10(日)●増税・物価高騰進む独のベルリンで反政府デモ、社会主義支持者二五万人が参加。
11(月)●私立聖心女学院、開校。
12(火)●東京で「桜田烈士五〇年祭」を開催。
13(水)●清国の湖南省で米騒動(農民暴動広がる)。
14(木)●米大リーグ開幕戦、大統領が初めて始球式。
15(金)●広島湾で佐久間艇長ら一五人乗り組みの「第六潜水艇」が沈没、全員死亡。
16(土)●石川県輪島町で大火、一八〇〇戸焼失。
17(日)●内務省、北海道移住奨励策などにつき、地方長官会議に諮問。
18(月)●臨時発電水力調査局が発足。発電所設置場所に関し全国的調査を行う。
19(火)●独留学中の細菌学者・秦佐八郎、梅毒の特効薬・サルバルサンを発見と独の学会で発表。
20(水)●茨城県行方郡で、桑の葉を食い荒らす毛虫が大発生、亡国虫と名づけ対策に躍起と新聞に。
21(木)●改正漁業法、公布。漁業組合の整備・拡充など、漁業近代化めざす。
22(金)●茨城県猿島村で前年から導入したタバコ栽培が成績良好、と新聞に。
23(土)●電話規則改正公布。遠距離料金逓減制など。
24(日)●松竹の東京進出で、演劇界に波乱、と新聞に。
25(月)●東武鉄道、浅草—北千住間電化・複線化決定。
26(火)●日露協会が復活の動き、と新聞に。
27(水)●三ツ矢サイダーが好評で、宮内庁御用達にもなった、と新聞に。
28(木)●殖民学会、創立総会を開催。歴史家・竹越与三郎、農業経済学者・新渡戸稲造らが参加。
29(金)●沖縄県諸禄処分法、公布。金禄・社寺の飯禄などを整理。
30(土)●草津電気鉄道に設立免許。

ROGER-VIOLLET/ユニフォト・プレス

▲**南アフリカ連邦成立(5月31日)** ケープ、トランスバールなど4州が、英自治領として合邦。写真は初代首相・ボータ。翌年、白人保護のため、最初の人種差別法「鉱山・労働法」を制定。

HULTON GETTY/オリオン・プレス

▲**英国王・エドワード7世が死去(5月6日)** 68歳。庶民的な性格で、人気があった。後継はジョージ5世(44)。国葬には、欧州の王侯が一堂に会した(写真)。

「写真タイムス」

◀**広瀬中佐の銅像除幕式(5月29日)** 東京の万世橋際に建立。東郷大将・杉野兵曹長未亡人らが出席、日露戦争旅順港閉塞作戦で戦死した「軍神」の英姿を仰いだ。

PPS

◀**全米黒人地位向上協会、設立(5月)** 黒人へのリンチ・差別が横行する中、デュ・ボイス(写真)を唯一の黒人役員として、ニューヨークで発足。1921年には全米に400以上の支部ができた。

「写真タイムス」

◀**伝通院再建(5月25日)** 2年前、家康の母・伝通院の木像も焼失する火災に見舞われた、東京・小石川の名刹が復興へ順調。写真は、檀徒などを前に行われた上棟式。

▲**ロンドンで日英博開催(5月14日)** 日本は美術品などのほか、陸軍軍楽隊、力士や軽業師などを派遣、「日本」をアピールした。写真は会場内のジェットコースター「山岳鉄道」。

明治43年5月

1(日)●仏でゼネストが深刻化、軍隊が出動。
2(月)●ベルギー領コンゴで、賦役労働を廃止。
3(火)●青森市で大火。約七五〇〇戸が焼失。
4(水)●東京市参事会、電鉄の高架化を検討と新聞に。
5(木)●東京の第一師団では、流行の腸チフス予防注射を実施、現在のところ好成績、と新聞に。
6(金)●英国王・エドワード七世が死去。ジョージ五世が新国王となる。
7(土)●茨城県・群馬県で、遅霜・干ばつなど被害深刻、と新聞に。
8(日)●福島県加納鉱山で鉱毒流出、被害民が衛生試験場の分析表を添え、仙台鉱山監督署に陳情。
9(月)●東京・日比谷公園で愛国婦人会総会開催。全国から一万五〇〇〇人が参加。
10(火)●英下院、上院の権限を制限する決議案を可決。
11(水)●大阪商船の「和歌山丸」が和歌山県周参見港沖で沈没、五三人死亡。
12(木)●本年度の高等学校入学者は、全国八校合計で二四三九人だった、と新聞に。
13(金)●斎藤実海相、艦隊拡張案を桂太郎首相に提出。八年間で艦艇五一隻を建造、予算規模四億円。
14(土)●ロンドンで、日英博覧会開催(~10月29日)。
15(日)●著作権法、改正公布。範囲を建築物まで拡大。
16(月)●東京市は、新宿・品川・千住など繁華街の市部編入を検討している、と新聞に。
17(火)●高松駅工事の大工一二〇人、低賃金抗議スト。
18(水)●パリで、第一回国際航空会議、開催。
19(木)●「ハレー彗星」が地球に最接近。
20(金)●米国がニカラグアに軍事介入。
21(土)●汽車の切符を偽造し、約八二〇枚、一七〇〇円分を乗客に売りつけていた男を送検。
22(日)●大倉組、採炭・製鉄を行う「本渓湖煤鉱公司」を日清合弁で設立。
23(月)●英仏独の対清国鉄道借款団、米国の参加を承認。四国借款団が成立。
24(火)●南アに連邦党結成。大英帝国主義掲げる。
25(水)●アンデス横断鉄道が開通。南米初の横断鉄道。
26(木)●議院建築準備委員会官制が裁可される。
27(金)●国勢調査準備委員会が発足。
28(土)●自由劇場、第二回試演。チェーホフ作・小山内薫訳の「犬」などを上演。
29(日)●東京・万世橋で、広瀬中佐の銅像除幕式。
30(月)●堀井新治郎、輪転謄写印刷機の特許を取得。
31(火)●南アフリカ連邦が、英自治領として発足。

「写真タイムス」

▲首無し女事件の生首さがし(6月)前月、東京・大川に死体が浮いて大騒ぎに。深川署は情夫を逮捕。自供により、潜水夫も動員して捜索したが発見できなかった。

◀柳田国男『遠野物語』刊行(6月14日)岩手県の山村・遠野郷に伝わる伝承を採録。「常民」史学形成への第一歩となり、日本民俗学誕生を告げる労作となった。写真中央が柳田(34)、右は田山花袋。

◀バレエ「火の鳥」好評(6月25日)ロシア・バレエ団がパリ・オペラ座で初演。ストラビンスキーの曲にフォーキンが振り付け。バクストの衣装(写真)も観客を魅了した。

三越提供

▶三越呉服店が「小供」寄宿舎スタート(6月)東京・本郷の540坪の敷地に、宿舎4棟を完成。「小供」と称する14〜18歳の店員約300人を収容、集団生活の中で人材育成をはかった。

「グラヒック」

▶大相撲一行「満韓巡業」に出発(6月17日)写真は新橋駅で初めての「海外雄飛」の見送りを受ける横綱常陸山(中央)。漢城(現・ソウル)、仁川、大連、釜山などで興行を行い、人気を博した。

▶有楽町駅が開業(6月25日)山手線が品川—烏森(新橋)から、さらに延長。烏森—有楽町間は高架となった。写真は、花電車が繰り出してにぎわう駅頭。山手線環状運転の実現は、大正14年である。

明治43年6月

1(水)●「大逆事件」で、幸徳秋水が逮捕される。
2(木)●東京・神田の私設出獄者保護収容所、創立一三年で一〇七一人を保護、と新聞に。
3(金)●閣議、併合後の韓国に対する施政方針を決定。天皇大権による直轄地とするなど。
4(土)●パリのオペラ座で、バレエ「シエラザート」を初演、ニジンスキーが人気をさらう。
5(日)●第二回東京フィルハーモニー会演奏会で、三浦環が独唱、聴衆の喝采を受ける。
6(月)●名古屋市開府三〇〇年祝賀会、開催。
7(火)●鹿児島の天主公教会宣教師・タルラージ、聖書改訳の大業終える、と新聞に。
8(水)●駒込千駄木坂下町を駒込坂下町など、東京の町名が簡略化される、と新聞に。
9(木)●台北製糖、設立認可。
10(金)●昨年の英米仏独の出版数は、それぞれ一万種以上、英米が一・二位争う、と新聞に。
11(土)●スペイン国王、信仰の自由を宣言。
12(日)●宇野線・宇野—岡山間開通、宇高連絡船開設。
13(月)●米国のハミルトン、ニューヨーク—フィラデルフィア間約二八〇キロを三時間二九分で飛行。
14(火)●柳田国男、『遠野物語』を刊行。
15(水)●東京市内の小学校は、教師不足・校舎不足で二部授業になりつつある、と新聞に。
16(木)●台湾の日本警備隊と叛乱原住民が宜蘭で激戦。
17(金)●新潟鉄工所、設立。
18(土)●岡田四郎、岡田式単葉飛行機を製作。
19(日)●米国で、初の「父の日」の行事が行われる。
20(月)●第一回生産調査会、開催。主要穀物の増収・蚕糸業の改良・公有林野開発の条件など審議。
21(火)●東京電灯、約倍額の五〇〇〇万円に増資。
22(水)●早大野球部、第一次ハワイ遠征。
23(木)●前年の日本の生糸輸出は一億三〇〇〇万円、世界の三割を供給、と新聞に。
24(金)●韓国警察事務委託に関する日韓覚書、調印。韓国の警察業務を日本が支配。
25(土)●米議会、白人奴隷禁輸法を可決。ヨーロッパの女性を売春宿に送りこむことを禁止。
26(日)●「東京朝日新聞」、将校婦人・博士令嬢など、「身分ある女性」の万引きをルポ。
27(月)●片山潜ら、南千住で社会主義政談演説会開催。
28(火)●高層の気象観測に気球の使用を検討と新聞に。
29(水)●シベリア急行が週一便から週四便へと新聞に。
30(木)●日本窒素肥料、稗島工場で硫安の製造を開始。

「現場」を歩く 逗子

哀歌「真白き富士の根」を生んだ遭難事件への逗子開成学園のけじめ

山本徹美

▲逗子開成中学の生徒12人が遭難した、七里ケ浜の海浜公園に立つ「ボート遭難慰霊碑」。徳田兄弟をモデルにしたブロンズ像である。 但馬一憲

明治四三年一月二三日の日曜日、神奈川県七里ケ浜沖の相模湾でボートが転覆、乗っていた少年一二人が遭難した。

当日の天候は、快晴。午前九時頃、逗子開成中学の生徒数人は、葉山にある同校ボート部の艇庫から「箱根号」を無断で搬出、江の島方面に向けて漕ぎ出した。

ボートは「ギグ」と呼ばれる細長い帆船。少年たちは帆を舷側に固定したまま、六挺のオールを操り、海岸ぞいを航行していた。途中、小学生三人を乗せたが船が沈みすぎるのでそのうち二人を浜に降ろし、それでも沈むので中学生三人が伴走していた和船に乗り移る。「箱根号」の定員は七人。定員を上回っても船足は速く、和船は同行をあきらめ帰港した。

同日午後一時半頃、漁船がオールにつかまって漂流している少年を発見した。救助したが、意識はなく、まもなく死亡。ただちに捜索、救援活動が開始されたが、残る一一人の行方は杳として知れず。二五日午後、遺体があがった。その姿が、見るものの感涙を誘う。徳田勝治が自分の胸にしがみつく弟・武三を両腕でしっかりと抱きしめていたのである。

二七日までに、遭難した一二人全員の遺体を収容。二月六日には同中学校庭で法要がいとなまれ、鎌倉女学校・三角錫子教諭の作詞による「七里ケ浜の哀歌」が同女学校生徒全員で合唱された。これは後に「真白き富士の根」と改題、大流行する。

「ボート遭難の日」を制定

七里ケ浜を訪ねてみた。海浜公園の突端に、ブロンズ像が立っている。右腕を天にかざした青年が、左の小脇に児童を抱えたポーズで、徳田兄弟をモデルにしたものだ。台座に「ボート遭難慰霊碑」とあり、由来と「真白き富士の根」の歌詞が刻んであった。

逗子開成学園では一月二三日を「ボート遭難の日」と定め、現在も追悼式を続けている。吹奏楽部によって「真白き富士の根」も演奏されるが、

「過去一回も合唱はしていないです。あれは校則違反の結果発生した遭難事故。追悼の意は表しますが、美化してはいけません」(岩佐直樹・同校広報部長)

遭難直後、ボート部は解散したが、大正四年に再建。以後、昭和一四年にはヨット部に引き継がれ現在にいたっている。

「中学一年生はヨット製作が必須科目で、毎年一〇艇、完成しています。学校の保有艇数は一〇〇を超える。生徒たちは、単独航海で鍛えられ、自信がつくと言います」(西野明男・海洋教育運営委員長)

逗子開成のボート遭難が後世に語り継がれたのは、徳田兄弟の「美しく尊い人間愛」(碑文)があればこそ。兄の姿には、みずからの"暴挙"で弟を犠牲にした悔恨が感じられる。私が立ち寄った時、七里ケ浜に打ち寄せる波にはうねりがあり、富士山は霞んで見えなかった。

毎日新聞社

▲遭難から2週間後の明治43年2月6日、逗子開成中学校庭で追悼式が行われ、「七里ケ浜の哀歌」が合唱された。

ベストセラー

日本の民俗学を切り開いた柳田国男『遠野物語』刊行！

この年二月、慶応義塾に教授として招かれた永井荷風が、五月に文学部機関誌「三田文学」を創刊した。森鷗外と上田敏を文学部顧問として出発したこの文芸誌に、荷風は熱意を傾けた。

創刊号に掲載した自身のエッセイに「売らん哉、売らん哉、これが飢えた狼を闇夜に活動させる根本の力である。売らんが為には先づ自己を臆面なく極点まで推賛する必要が生ずる」と記し、「クラブ洗粉御園白粉を使はなければ美人になれない。この意味に於て『三田文学』を読まないものは文学を知らないものである」とまで書いた。その背景には、島村抱月主宰の「早稲田文学」に対抗して、この文芸誌を耽美主義的な文学の舞台にしようとする意思があった。創刊号執筆者には、森鷗外のほか、木下杢太郎、三木露風らがいた。

またこの年六月、日本の民俗学にとって決定的に重要な意味を持つ書物、柳田国男の『遠野物語』が刊行された。遠野出身の文学青年・佐々木喜善からの聞き書きの形をとっており、そこでは座敷童子や山の神、山男や山女、雪女、河童、狼や熊などが躍動していた。柳田自身は序文の中で「思ふに遠野郷には此類の物語猶数百件あるならん。我々はより多くを聞かんことを切望す。国内の山村にして遠野より更に物深き所には又無数の山神山人の伝説あるべし。願はくは之を語りて平地人を戦慄せしめよ」と書いたが、この挑発的な言辞は、民俗学を興すにふさわしいものだった。

さらにこの年末には「大逆事件」に衝撃を受けた天才歌人・石川啄木が、現実に則した歌を多く歌った、生前唯一の歌集『一握の砂』を上梓した。「東海の小島の磯の白砂に／われ泣きぬれて／蟹とたはむる」や「はたらけど／はたらけど猶わが生活楽にならざり／ぢつと手を見る」「いたく錆びしピストル出でぬ／砂山の／砂を指もて／掘りてありしに」など、よく知られる作品がおさめられていた。

▲「三田文学」(表紙・藤島武二画、三田文学舎、25銭)

▲『一握の砂』(東雲堂書店、60銭)

◀『遠野物語』(聚精堂、50銭)　日本近代文学館提供(3点とも)

スターと名場面

映画「忠臣蔵」で主要三役！尾上松之助の存在感際立つ

前年の明治四二年に牧野省三監督の「碁盤忠信」でスクリーン・デビューをはたした尾上松之助が、この年、同じ牧野省三のもとで初めて「忠臣蔵」に出演し、本格的に映画スターの道を歩み始めた。

この「忠臣蔵」で尾上松之助は、浅野内匠頭、大石内蔵之助、清水一角と、敵味方入り乱れての主要三役を演じているが、それほど彼の存在感は際立っていた。舞台をそのまま撮影したようなシーンが多く、カメラは据え置き、背景は書き割りという素朴なものだったから、よけい役者の存在感が必要とされていた。尾上松之助はその要求にこたえうる役者だったのである。

なお、この映画は戦後まもなく、別の時期に撮影された忠臣蔵と混同されながらも再編集され、浪曲や弁士の声をともなったトーキーで公開されている。

ほかにも、尾上松之助が主演する映画や、劇団がまるごと出演する映画など、日本の映画も次第にストーリーを整えるようになり、新時代のエンターテインメントとして期待されていた。

また舞台の方では、新劇を誕生させようとする動きはますます活発になってきており、前年スタートした「自由劇場」が五月に有楽座で第二回の公演を行い、そこでは市川左団次や市川莚若らが新しい舞台と役作りに熱意を燃やしていた。

マツダ映画社提供

▲「忠臣蔵」の浅野内匠頭切腹の場面。中央の白装束が、内匠頭役の尾上松之助。

▲映画会社・吉沢商店製作作品のひとつ「雪と炭」の一シーン。演劇を本業とする本郷座の面々が出演した。

▶東京・有楽座での自由劇場第2回公演から、森鷗外作「生田川」の一場面。左端が、芦屋処女を演じた市川莚若。

モノ語り'10

"衛生思想"にこたえて新製品開発！「クラブ白粉」「金鳥香」「萬歳歯磨」

▲衛生思想を具現化した製品　蚊やノミは大病を媒介するというので、その駆除は深刻な問題だった。昔からあった"蚊遣り火"は、濡らした草木を燃やして多くの煙を出すというもので、家の中には煙がたちこめ不便だった。そこで開発されたのが、日本貿易輸出合資会社(現・大日本除虫菊)の蚊取線香「金鳥香」である。すでにこの頃には、蚊遣り火を駆逐する勢いで売れていた。写真は、まだ主力製品だった棒状の蚊取線香。

◀ガラス瓶に入ったお猿の玩具　江戸時代から親しまれていた玩具「負い猿」は、四角い木綿の布の中に綿を入れて縫い合わせる簡単なものだったこともあり、娘たちが裁縫の手始めに習うものでもあった。この負い猿を、当時珍しがられていた"ボトルシップ"風に、ガラス瓶に入れた玩具に、人気が集まっていた。
日本玩具資料館蔵／小森谷信治

▲鉛中毒が起こらない白粉に人気集中　この頃、鉛の中毒を避ける各種の"無鉛白粉"が売り出されていたが、この年、中山太陽堂(現・クラブコスメチックス)から1個25銭で発売された無鉛白粉の「クラブ白粉」は、女性たちの圧倒的人気を得て、たちまち無鉛白粉市場を席巻した。その背景には、独自の広告戦略もあった。広告のモデルに、女優や芸者ではなく、東京市長夫人や華族の令嬢といった"素人"を登場させ、素人の美しさを強調したのである。

◀国産の蓄音器がついに登場！　新しいメディアとしてさかんに輸入されていた蓄音器だが、この年ついに国産化に成功。日米蓄音器製造(現・日本コロムビア)から、「ニッポノホン」が製造・発売された。朝顔のようなラッパがトレードマークの「ニッポノホン」だったが、25号、32号1／2号、35号、50号の4機種が発売された。この号数は、価格を表しており、最も代表的な機種とされる写真の35号は1台35円だった。

▲「金縁眼鏡」はハイカラの象徴だった　西洋風を代表する装身具のひとつととらえられていた眼鏡だが、この頃は「金縁眼鏡」が流行の最先端だった。この頃流行した歌「ハイカラソング」の一節に「ゴールド眼鏡のハイカラは／都の西の目白台……」というくだりがあったほどで、金縁眼鏡はまさに、ハイカラなファッションと考えられていたのである。
めがねの博物館蔵／平山亮

▶歯磨きが海外に進出していた　明治24年創業の小林富次郎商店(現・ライオン)は、明治38年、創業者の小林みずから欧米を訪ねて、ライオン歯磨きの海外販売経路を切り開いた。やがてその販路に、ライオン歯磨きの欧米版として「萬歳歯磨」を投入、この年、国内でもこの「萬歳歯磨」を発売した。なおこの商品名は、"バンザイ"という唱和が日露戦争後、海外でも通じるようになったために用いられたもの。
ライオン史料センター蔵／奥村健太郎

進取の精神のデザイン化

蚊取線香のパッケージでおなじみの「金鳥」のマークが、日本貿易輸出合資会社(現・大日本除虫菊)の商標として登録されたのがこの年だった。アメリカから除虫菊を輸入・播種し、日本全国に広めた創業者・上山英一郎は、進取の気性に富んでおり、中国の古典『史記』に記されている「鶏口となるも牛後となるなかれ」を信条としていた。

この信条から生まれたのが金鳥マークで、今にいたるまで若干の変化はあるものの、基本的なデザインは変わることがない。

▲左が明治43年の商標デザイン、右が現在のもの。

人物クローズアップ

徳川慶喜（七三）

大政奉還から四三年経過！「最後の将軍」が晴れて隠居

明治四三年一二月、この年七三歳になった「最後の将軍」徳川慶喜は、徳川慶喜公爵家を七男・慶久に譲り、晴れて正真正銘の隠居の身となった。

慶喜の人生の半分は隠居生活と言っていい。慶喜には、すでに二度の隠居体験があった。ひとつ目は、一橋家の当主だった慶喜が、安政五年（一八五八）、井伊直弼による「安政の大獄」で隠居謹慎を命じられた時。これは一年後に解除された。ふたつ目は、鳥羽・伏見の戦いの後、蟄居中の慶喜が水戸から静岡に移された年の明治二年九月、謹慎が解けて、宗家当主・徳川家達の義父という身分だけになった時である。

「朝敵」の汚名におびえつつ、与えられた立場に甘んじて生き続けた慶喜に公爵が授けられ、六四歳にして徳川慶喜公爵家の新たな当主となったのは、明治三五年のこと。これが、三三年におよぶ二度目の隠居が解除された時だった。

それから八年。これまでのように強制されたものではない、みずから選んだこの本当の隠居生活は、慶喜が余生を平穏に送るために残された、わずかな日々だったのである。

徳川慶喜は、天保八年（一八三七）九月二九日、御三家のひとつ水戸徳川家当主・徳川斉昭の七男として生まれた。幼名は七郎麿。父の斉昭は、子どもの頃から慶喜に、武家の長たる資質を持つものとして大きな期待を寄せた。

水戸徳川家には、将軍になる資格がない。資格があるのは、御三家の中でも尾張、紀伊の両徳川家と、一橋、清水、田安の御三卿だけである。慶喜が九歳の時、老中の阿部正弘から一二代将軍家慶の内意として、慶喜を一橋家へ養子に迎えたいむねの話があった。弘化四年（一八四七）、慶喜は一橋家を相続する。

慶喜は本来、野心の少ない人物だった。その慶喜を、幕末という時代が、勝手にその時代を動かす中心人物に仕立てあげていく。家康以来の英傑という評判が、大名たちに実体以上の期待を持たせ、また水戸徳川家の家学である水戸学が、尊王攘夷を叫ぶ幕末志士たちの支えになった。嘉永六年（一八五三）のペリー来航に始まった幕末の動乱は、「安政の大獄」を経て、慶喜を自身の意図とは裏腹に、日本を救う最後の切り札という巨大な存在に作りあげていったのである。

慶応二年（一八六六）一二月五日、慶喜は第一五代将軍となった。しかし、将軍であった時期はわずか一〇ヵ月余りにすぎず、しかも大政奉還後、鳥羽・伏見の戦いに敗れてからは、反幕府勢力に対してひたすら恭順の姿勢をとり続けた。

こうした慶喜の姿勢を、作家の童門冬二氏は次のように説明する。

「慶喜が考えていた大政奉還後の政権構想が、鳥羽・伏見の敗北で崩壊したためではないでしょうか。慶喜は公武合体による議会制の中央集権政府を構想していましたが、それが不可能になって、以降、すべてから手を引いてしまいました」

維新政府成立後、慶喜は趣味に生きる人になった。三〇年ほどをすごした静岡時代は、もっぱら馬を駆っての狩猟と写真に凝り、また、清水に出かけては網打ちに興じたりした。明治三〇年以降、東京に移ってからは弟・昭武の別荘がある松戸に出かけ、鴨猟と写真撮影に熱中している。

隠居後も、慶喜は三年近くを生き続ける。しかし、さすがに肉体は衰え、外出することはなくなった。三〇歳で第一線を退いてから四五年余り、「最後の将軍」は大正二年一一月二二日、七六歳で没した。

茨城県立歴史館提供

▶穏やかな表情の、晩年の慶喜。江戸開城後は水戸に移り、次いで、静岡に居をかまえた。明治三〇年、東京へ移ってからは交際も控え、静かな生活を送った。

◀明治二二年五月四日、当時静岡に住んでいた慶喜が、知人宅を訪ねた折の記念撮影。左端が慶喜。その右が弟の昭武。

徳川文武所蔵

▶慶喜愛用のドイツ・ゴルツ社のプリモ・カメラ。慶喜は若い頃から多趣味だったが、晩年は特に写真に凝っていた。

久能山東照宮博物館提供

◀武装したサパタ。メキシコ革命の勃発で、貧農を率いて参加、1911年、ディアス独裁政権を倒した。

HULTON GETTY／オリオン・プレス

決定的瞬間

「革命児サパタ」戦列へ！ 独裁者・ディアスに抗して ついにメキシコ革命勃発

大きなソンブレロをかぶり、銃をかまえるエミリアーノ・サパタ（三一）。メキシコの首都、メキシコシティの南、モレロス州で家畜商の子として生まれた彼は、原住インディオの血が濃く、「皮膚の色は生まれ育った大地に似て褐色をしていた」と言われている。背が低く無口であったが、農民軍の指導者として、メキシコ革命の勃発時には、いち早く戦列に参加した。

サパタが生まれた一八七九年頃のメキシコは、ポルフィリオ・ディアスの長期独裁政権（一八七六〜一九一一年）が始まった時代であった。軍人出身のディアスは反対者を厳しく弾圧し、「パンか棍棒か」という二者択一で社会秩序を維持していた。

一方、経済は「メキシコは外国人の母親となり、メキシコ人の継母となった」と言われるほど外国資本家を優遇し、工業化を急いだ。しかし、国民の八四％を占める農民は、自分の土地が持てず、村にわずかに残る先祖伝来の共有地までもが大農園主に取り上げられていた。

サパタが生まれた村でも、共有地が没収され、村の会堂が破壊された。当時八歳になるサパタは、涙にくれる父親に、「なぜ闘わないのか」と聞いたそうだ。その時、父親は「彼らの方が強いからだよ」と答えた。サパタが青年に成長してから村有地返還運動を始めたのも、大農園主層の解体と農民への土地の分配を求めたのも、国民の八割以上を占める農民たちの共通の願いであったからだ。

こうしたディアス政権の独裁がほころび始めたのは、地主階級に生まれた進歩思想の持ち主、マデロ（当時・三四歳）が一九〇八年に、「一九一〇年の大統領継承」というパンフレットを出版して、ディアスの長期独裁政権を攻撃したことに始まる。マデロの主張は、野党、知識人、労働者、農民など多くの支持を集め、この年、一九一〇年には、反対勢力は非公式の全国大会を開いて彼を次期大統領候補に指名する。こうした動きに危機感を持ったディアスは、大統領選挙直前になってマデロを武装叛乱の罪状で逮捕した。同年九月三〇日、八〇歳になるディアスは大統領に再選された。しかし、獄中のマデロは、選挙の無効と公然たる叛乱を訴える計画書を執筆。選挙後アメリカに亡命した彼は、ただちに「一一月二〇日を期して、メキシコ国民が一斉に叛乱すること」を呼びかけたのだ。

これがメキシコ革命の始まりである。

この呼びかけにまず応じたのは、メキシコ北西部のゲリラであり、有名なパンチョ・ビリャ（当時・三二歳＝貧農の出身で、盗賊の首領であったが革命軍に参加して英雄となる）もその一人であった。サパタは農地の解放を求めて、モレロス州から騎馬隊を組織して呼応する。ゲリラは雑多な不満分子を集めたもので、その勢力は一万七五〇〇人程度であった。

革命軍はパンチョ・ビリャの勇敢な戦いぶりや、サパタのモレロス州での勝利などで力を得、翌年五月にはディアスを辞任にまで追い詰め、マデロが大統領の座につく。

しかし、メキシコ革命は、その後も革命と反革命の戦乱状態が続き、一九一七年に進歩的な憲法を生み出すにいたるが、一九一九年四月、サパタは政敵によって暗殺された。ただ農民たちの多くは、「サパタは死んでいない。山地で馬に乗り貧農を見守っている姿を見た」と語った。

「革命児サパタ」は、いつまでも農民たちの心の中に生き続けたのである。

CORBIS・BETTMANN　PPS

▲1914年3月、北メキシコの要衝・トレオン市攻略に向かうパンチョ・ビリャ。彼は武装集団を率いて、ディアス独裁政権打倒に貢献。その後、北部軍団司令官となる。

美の出会い

藤島武二の才能ほとばしる「黒扇」ほか滞欧中の二七点
白馬会展で一挙に公開！

◀この頃の藤島武二。明治43年の帰国後は、東京美術学校教授をつとめ、独特な明るい色調の作風で、若手の指導的位置を占める。昭和12年、文化勲章受章。

明治四三年五月一〇日から六月二〇日まで、東京の上野公園竹之台陳列館で、白馬会第一三回展が開かれた。この展覧会には、四年間にわたるヨーロッパ留学から帰国したばかりの洋画家・藤島武二（四二）の、「黒扇」「ルツェルン」など滞欧作品二七点が出品され、大きな話題を呼んだ。

藤島作品には同僚や若手から称賛の声が寄せられ、新聞の展評なども絶賛する記事が目についた。詩人の木下杢太郎（二四）は読売新聞に「白馬会を評す」と題して、藤島に賛辞を送っている。

「滞欧記念の諸作品は何れも皆よく氏の装飾画家的気禀を発揮している。故に予等は氏の小画幅の前に自然の幻影を感得する前に画面の美しさに動かされる」

このように多くの人々を惹きつけた藤島作品の斬新な側面は、どんなところにあったのだろう。石橋財団ブリヂストン美術館の学芸員・中田裕子さんは次のように語る。

「たしかに藤島は装飾画・壁画ということを考えていましたが、出品作は風景画の小品がほとんどでした。見るものに新鮮さを感じさせたのは、明るい色彩と伸びやかで軽快な筆勢だったのでしょう」

この展覧会により、藤島が当代の実力第一人者であることを、誰もが認めることとなった。藤島自身も、留学の後半にイタリアで達した画境に自信を持っていたのである。だが、こうした世間の高い評価にもかかわらず、画壇での藤島の地位は、それにふさわしいものとはならなかった。

この年の秋に行われた第四回文展では、藤島の同輩・岡田三郎助（四一）や後輩の中沢弘光（三六）が審査員に選ばれたが、その中に当然入るものと思われていた藤島の名はなかった。

翌年の第五回文展に、藤島は一般出品者として「幸ある朝」と「ヴィラ・デステの池」を出品したが、受賞したのは後輩の南薫造（当時・二七歳）や山下新太郎（当時・二九歳）だった。後に洋画家の石井柏亭は、「幸ある朝」に賞を与えなかったのは審査員の不明であると記している。この頃の藤島作品の中には、落選したものさえあると言われている。画壇からの冷遇ぶりが察せられよう。

薩摩藩士の三男として鹿児島に生まれた藤島武二は、明治一八年に東京の川端玉章のもとで日本画を学び、後に洋画に転じ、曾山幸彦、山本芳翠らに師事する。明治二九年、東京美術学校に西洋画科が開設された折、同郷の黒田清輝から助教授として迎えられ、上京。この時、藤島は三重県津市の県立尋常中学で教鞭をとっていた。黒田が主宰する白馬会には創立時から参加し、技量は高く評価されていた。しかし、次席助教授の岡田三郎助や和田英作らが先にヨーロッパ留学をはたし、帰国後に教授になるなど、先を越されていた。

ようやく明治三八年、藤島は文部省から四年間の留学を命じられ、フランスに旅だつ。この時すでに三八歳。けっして若くはない年齢である。が、かえってこのことは、藤島にとって幸いしたかもしれない。藤島は黒田から紹介されたラファエル・コランではなく、パリでは国立美術学校教授のフェルナン・コルモンに学び、ローマではフランス・アカデミー院長のカロリュス・デュランについている。ともに正統なアカデミズムの大家である。このあたりの事情を、藤島は帰国時に、美術雑誌「美術新報」のインタビューで答えている。

「私は過去に於ても、将来に於ても、自分の遣らうと思ふ方向は、装飾風の画である。それは私の初からの希望であつた。（略）自分の欠点と認むる風景画を、留学中に努めて研究する考であつた。斯う云ふ考で、装飾画が目的であつたに拘らず、傍ら肖像画を学び又た風景画を研究した」

当時のフランス画壇は、印象派・後期印象派の画家たちが評価されるとともに、マチスらフォーヴィスムの新進画家たちも活躍し始めた頃である。すでに独自の装飾画を追求することに肚を固めていた藤島は、これらの新しい動きに翻弄されることなく、むしろその熱気に刺激され、精力的に風景画や肖像画の制作に打ちこんでいった。さらにローマに移ってからは、イタリア・ルネサンスの作品にも傾倒する。こうした刺激的な環境の中で、ローマの風景を描いた「ヴィラ・デステの池」や人物画の「黒扇」などの傑作が生みだされていったのである。これらの作品に見られる豪快な筆勢は、留学を通して藤島が大きな自信を得たことを示している。

大正一三年に黒田が没すると、藤島は帝国美術院会員となり、その年の第五回帝展に中国服の女性像「東洋振り」を発表。名実ともに洋画界の第一人者となる。明治・大正・昭和と、洋画の主流を歩みながら、常に新しい潮流に共感を示し、猪熊弦一郎や小磯良平ら多くの才能を育てた藤島の功績は大きい。

▼「ルツェルン」。明治41年。油彩、23.5×32.8センチ。日本の洋画家の中でも稀な、この作品に見られる筆勢の激しさは、多くの人を驚かせた。

ブリヂストン美術館蔵

▲「黒扇」。明治41〜42年。油彩、63×40.8センチ。ローマ滞在中に描かれた藤島の代表作。重要文化財に指定されたので、見おぼえのある人も多いだろう。

ブリヂストン美術館蔵

20世紀博物館

真珠博物館

三重・鳥羽市

御木本幸吉ゆかりの相島で“養殖”と“天然”を比べてみる

桑原茂夫

「真珠博物館」は、明治二六年に御木本幸吉が養殖真珠を初めて誕生させた相島（現・ミキモト真珠島）にある。もともとは戦後まもなく、養殖真珠の生産や流通について知ってもらうための“産業博物館”として開設されたものだが、昭和六〇年、あらためて天然真珠を含む、真珠とジュエリーの専門博物館として装いを整えた。

今は、一階が“産業博物館”時代から続く養殖真珠中心のフロアである。ここの呼びものは、養殖真珠の生産から流通段階までの流れを見せてくれるコーナーで、むき身の貝やレアな状態の真珠を使っての実演が行われている。この実演はなかなか刺激的で、貝のむき身に真珠の核となる異物を差しこむ“手術”が目の前で行われたり、採れた真珠を一粒ずついとおしむ間もなく、熟練した手技ですばやく製品化したりするのだ。

二階には、天然真珠のコーナーと、御木本幸吉による養殖真珠開発ヒストリーのコーナーがある。

天然真珠のコーナーには、明治三九年における天然真珠採取の地域を示す世界地図がある。天然真珠がどこで採れるかなど考えたこともなかったから、この世界地図は新鮮に見えた。そこには地域別に「真珠採り（ちなみに、英語でパールフィッシャーと言うそうだ）」の人数が示されており、ペルシャ湾の三万五〇〇〇人を筆頭に、中国・日本の二万人、セイロンの一万八五〇〇人と続く。このうち、ペルシャ湾やセイロンにおける真珠採取の勧進元はインド人で、採れた真珠をとりあえずボンベイで製品化し、ヨーロッパ市場へ送り出していた。その時の製品もここに展示されており、アジアの真珠採り全盛時代の名残を目のあたりにすることができた。

さて、世界に先駆けて養殖真珠の開発に成功した御木本幸吉だが、その発想の原点はビジネスにあった。天然真珠が高値で取り引きされることを知って真珠の増産に取り組み、やがて新しいビジネスとしての養殖真珠の開発に全精力を傾けるのだが、この時の幸吉の人脈作りには目をみはらされる。当時の水産動物学の権威だった東京帝国大学教授の箕作佳吉のもとを訪れて教えを乞い、その弟子の西川藤吉や歯科医だった桑原乙吉らを招いて、養殖真珠開発のブレーンとしているのだ。

一方、その販売についても準備おさおさおこたりなく、実弟の斎藤信吉をヨーロッパに派遣してノウハウを学ばせ、明治三二年、東京に進出し「御木本真珠店」を開いた。そして、質がよく洗練されたデザインの真珠製品を製作・販売し、明治から大正期にかけての宝飾市場を席巻したのである。

この二階の展示は、御木本幸吉のビジネスマンぶりといい、凝った造りの真珠製品といい、まさに古きよき時代をうかがわせるものであった。

●真珠博物館
三重県鳥羽市鳥羽一―七―一
☎〇五九九―二五―二〇二八
交通＝JR、近鉄鳥羽駅下車、徒歩五分
開館時間＝八時半～一七時（季節によって変動あり）
休館日＝一二月の第二火曜日から三日間
入館料＝一般一五〇〇円（ミキモト真珠島入場料として）

▶二〇世紀の初め、ヨーロッパで作られていた装身具。左のネックレスは黒真珠の房がついている。右のソートワールは、先端に時計を仕込んだペンダントがついている。

▼明治末期に御木本真珠店で売り出された帯留め（左）とブローチ（右）。高度な仕上がりである。

▲真珠貝に、「核」と言われる異物を入れる手術の実演。手前のガラス容器に入っているのが核。

真珠博物館提供（五点とも）

▲アコヤ貝のむき身。中央に白く光っているのが真珠。外套膜が、物質を分泌して異物を包みこみ、それが真珠となる。

▼ミキモト真珠島には、この真珠博物館のほか、御木本幸吉記念館などもある。

「五感を超える感覚作用」かイカサマか
東京帝大教授など学者9人の前で透視に成功！
御船千鶴子“千里眼”のカラクリ

▲御船千鶴子の透視実験が行われた日のスナップ。千鶴子をはさんで、右から、義兄の清原猛雄、東大助教授・福来友吉、東大教授・山川健次郎、千鶴子の父。「太陽」

明治四〇年代は、不況が長引いて、「暗い時代」だった。そこに突然、登場したのが「千里眼婦人」の御船千鶴子である。新聞各紙は、この夢のような話題に一斉に飛びつき、連日のように書き立てた。人々は、彼女の超能力に、厳しい現実からの救いを託したのである。だが、せっかくの夢は一年余で消えてしまう――。

二回目は成功したが最初の実験に残る謎

「ご主人の財布の中からなくなった五〇円が、仏壇の引き出しの中にあるって、すぐ、見抜いたそうです。結城の反物を内緒で買おうと、母親がこっそり抜き取って、隠していたらしい」

「代議士秘書の夫人が、泳いでいて、海の中にダイヤの指輪を落とした。すると、それはどこにあるって言ったので、さがしたら、ちゃんと見つかった。海っていえば、有明海に炭鉱を発見して、お礼に二万円もらったって聞きました」

こんな話が伝えられ、「千里眼婦人」と評判を呼んでいた熊本県宇土郡松合村（現・不知火町）の御船千鶴子（二四）が、招かれて上京し、学界の最高権威の前でその“超能力”を披露したのは、明治四三年九月一四日のことである。

実験が行われた東京・麹町中六番町の、出版社「博文館」館主で衆議院議員の大橋新太郎邸に集まったのは、次のような顔ぶれである。東京帝国大学教授でわが国初の理学博士・山川健次郎（五六）ほか、同教授の田中館愛橘（五二）、東京高師教授の丘浅次郎（四二）といった、

「太陽」

▶透視実験中の御船千鶴子。彼女は、義兄・清原猛雄の催眠術によって、その能力に目覚めた。透視のほか、病気治療など、さまざまな「超能力」で知られていた。

物理学、精神病学、法医学などの第一人者九人。別に、御船の紹介者として、東京帝大助教授・福来友吉（四〇）が控えていた。

山川は前日、「小学校令細則」の中から三文字ずつ、二〇組を選んで、一組ごとにその三文字を名刺に書き、これを二〇本の鉛管に入れ、管の両端をハンダづけにした。当日、午後二時。その中の一本を渡された御船は「わかりました」とつぶやくように言ってから、わずか数分で、紙に「盗丸射」と記してみせた。ただちに、鉛管をのこぎりで切り開き、中の名刺を取り出すと、そこには「盗丸射」と書かれていたのである。鮮やかな的中に、感嘆のどよめきが起こった。

ところが、「私の書いたものの中に、その三文字はないはずだが……」と言って、首をかしげた山川は、内ポケットから二〇組の字の写しの紙片を出し、テーブルの上に並べた。たしかに、どこにも「盗丸射」という文字はなかった。

実は、前夜、福来は山川に鉛管の形と寸法を詳しくたずねて、あらかじめ、同形のものを作り、御船に練習用として与えていた。それが実験用の二〇本の中に、まぎれこんでいたらしいということになった。そこで、あらためて山川が作った鉛管を確認したうえで、実験に移ったが、もう文字の透視はできなかった。御船は「一回で、疲れてしまいましたので」と、不成功の理由をこう言っていたという。

翌一五日、場所を変えて、神田淡路町の関根屋旅館で、二回目の実験が行われた。今度は、七人が名刺にそれぞれ三文字を書き、↖

▶明治四三年一二月二〇日、京都帝大の今村新吉教授が熊本に出向いて、御船千鶴子の透視実験をした際の配置図。

◀透視実験に使われた器具。名刺を中央の錫製の壺に入れ、さらに木製の箱に入れて、透視をした。

「太陽」

▶明治四四年一月、長尾郁子の念写で現れた文字。念写というのは、術者が念じる文字や絵を、密封した写真乾板に写し出すこと。

それを裏返しにして並べ、順序を入れ替えてから、一枚を錫の壺に入れ、さらに木箱へ納めた。御船は箱の上をしばらく見つめていてから、「心神通」という三文字を透視した。続いて、「道徳夫」の三文字も見透した。

この様子は、翌一六日の「東京朝日新聞」が「実験、みごとに成功」と報じたのを始め、各紙が取り上げた。福来は、一躍、マスコミの寵児となり、「千里眼」の御船は広く知られるにいたった。

さらに〝超能力〟ブームは続く。この年一一月二一日の「報知新聞」は「千鶴子にまさる千里眼」として香川県の長尾郁子（四〇）という主婦の存在を大々的に報じた。長尾は四国の丸亀区裁判所判事夫人という社会的地位からも、注目を集めた。福来は噂を耳にすると、長尾を訪れて、やはり、実験を試みている。長尾は「心眼」で「水天宮」の文字などを透視した。

主人公は自殺ブームも去る

福来が御船千鶴子を知ったのは、前年の明治四二年春である。当時、熊本高等工業学校につとめていた友人が、その存在を伝えてきた。

一年後、福来は熊本に赴き、四三年四月一〇日から五日間、御船の実験を目のあたりにしている。錫箔で密閉したカードの文字を透視する試みは、ほとんど成功したという。この成果に自信を得て、福来は、諸学者立ち会いのもとでの実験を提案したのである。

九月一五日の実験後、山川は「五感を超える、感覚作用」と語り、田中館は「簡単には信じられないが、透視ではなく、テレパシーによる可能性もある」と述べている。

明治四〇年一月の株式大暴落後、銀行の支払い停止、取り付け騒ぎが続出していた。賃金引き上げの労働争議も相次いだ。四二年一〇月には、元勲・伊藤博文の暗殺が起こった。このように、暗い出来事ばかりの中で、「千里眼」は、唯一とも言える「明るいニュース」だった。人々がこの話題に熱中したのは、無理からぬものがある。さらに、「千里眼」ブームの背景には、「心霊学」の流行があげられる。一九世紀末、欧米で研究が進んだ「心霊学」は、明治四〇年代、日本にもその影響をもたらし始めた。この「心霊学」に、福来をはじめとする「千里眼」肯定の学者が飛びついたのである。

「そういう時代だったからこそ、一時的にせよ、こんな『千里眼』なんてイカサマが世間にもてはやされたのです」と、手厳しくきめつける早稲田大学理工学部の大槻義彦教授は、さらに次のように話す。

「第一回目の実験で、御船は、福来に前もって手渡されていた鉛管の中の文字しか、透視できなかった。実験は、タネも仕掛けもある手品だった。新聞も、すぐ、そのことに気づき、否定的な報道に変わっていったのです」

その後、御船は「千里眼」の実験を繰り返したが、次第に能力の衰えに悩むようになり、明治四四年一月一八日、重クロム酸を飲んで、自殺をはかった。息を引き取ったのは、翌一九日未明である。続いて、同年二月一六日、長尾もインフルエンザで死去した。その後も、「念写」をするという人々が登場はしたが、「千里眼」狂騒は再び起こらなかった。

福来は、やがて、学内で「千里眼を売り物にする男」という批判が高まり、大正二年一〇月二七日、休職を命ぜられ、その後、東大に戻ることはなかった。

▲御船千鶴子と並んで「千里眼婦人」として知られた長尾郁子。

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

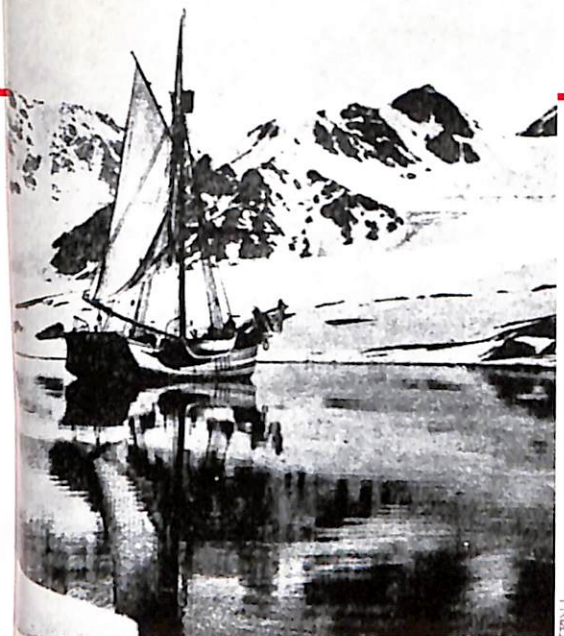
▶ジャック・ジョンソン(右)、王座防衛(7月4日)ボクシング・ヘビー級選手権で、挑戦者のジェフリーズを15回KO。白人を王者に、との興行主の夢は実らず、5都市で白人暴動が起きた。

CORBIS・BETTMANN／PPS

▼「めきしこ丸」進水(7月)大阪商船の注文で、三菱長崎造船所が建造、6059総トン、15ノット。日本経由・香港ータコマ航路に投入された。日本の船会社の北米航路本格参入が始まった。

毎日新聞社

▼白米100俵ほどこし(7月13日)東京・小石川の掃除町・指ケ谷町・西丸町・戸崎町などに1200戸の貸し長屋を持つ大工が、困窮する店子に、梅雨時恒例の施米を行った。

「写真タイムス」

▲ツェッペリン、北極航路調査(7月)73歳になる「飛行船王」が、スピッツベルゲン(写真)へ。飛行船による世界一周旅行実現へ向け、係留地を探索した。

「太陽」

▲大阪・文楽座で人間将棋(7月15日)関根・坂田が活躍し、新聞が棋譜を連載するなど、将棋への関心が高まっていた。人間将棋はこれに便乗。観客は、桟敷から勝負を見守った。

「グラヒック」

◀初の気球演習(7月12日)前年、東京・中野に設立された軍用気球研究会が、27日まで栃木県西那須野などで実施。新作の「四三式」気球が、空に浮かんだ。

「グラヒック」

明治43年7月

1(金)●日本、旅順港を開放、自由航行を認める。
2(土)●韓国統監府、憲兵警察機能を強化。
3(日)●白樺社主催で、有島生馬・南薫造滞欧作品展。
4(月)●第二回日露協約、調印。
5(火)●白瀬中尉らの南極探検公表式、東京で開催。
6(水)●韓国人口は一三三六万人、日本人は一四万人。
7(木)●東京で不正無尽が発覚、月掛け金一円で会員四〇〇人、当選は内部会員のみ、と新聞に。
8(金)●天皇、東京・本郷の前田利為侯爵邸を訪問。
9(土)●上野公園の松枯れは、鳥の糞が原因と新聞に。
10(日)●前年の石炭消費量は一二二七万㌧で、五年前の四五㌧増、と新聞に。
11(月)●南極探検参加希望者が二〇〇人突破と新聞に。
12(火)●船舶へのタービン機関採用が急増、と新聞に。
13(水)●東京で量目をごまかす米穀商増加、と新聞に。
14(木)●文部省、『尋常小学読本唱歌』を刊行。
15(金)●労働団体・欧友会が、東京の印刷会社五社とクローズドショップ制を契約。
16(土)●新潟県の製糸工場ストで、女工約四〇人拘引。
17(日)●政府、欧州各国に、現行通商条約廃棄通告。不平等条約で最後まで残った関税自主権回復へ。
18(月)●清国は「日露協約は満州を食い荒らす試みだ」と批判している、と新聞に。
19(火)●富士登山の費用、山小屋は一泊六〇銭から一円、強力を雇うと一円五〇銭、と新聞に。
20(水)●江戸前の遊漁船は、二人で乗って船頭つき五円から六円、「田船」なら五〇銭、と新聞に。
21(木)●福宝堂が東京八ヵ所に映画館開業、と新聞に。
22(金)●大阪商船の「鉄嶺丸」が、濃霧のため竹島灯台付近で座礁・沈没、二〇〇人余死亡。
23(土)●東京の海水浴は鎌倉・逗子に人気、と新聞に。
24(日)●栃木県石橋で演習中の陸軍中野気球隊、この日、降下予定地への着地など好成績をあげる。
25(月)●露が極東に「東方実用大学」を設置、と新聞に。
26(火)●「東京朝日新聞」、大学生の就職難は基本的な国富の貧弱さが原因と論説。
27(水)●寺社・飲食店の手拭いは伝染病媒介のおそれがあるので、警視庁が撤去を指導、と新聞に。
28(木)●東西の大手肥料会社、東京人造肥料と大阪硫曹の合併が決定、大日本人造肥料と改称。
29(金)●「樺太神社」創建(8月17日、官幣大社に)。
30(土)●貧困家庭の子どもの診療を続けてきた「婦人共立育児会」が付属病院を計画中、と新聞に。
31(日)●北海道・有珠山が大噴火。

◀東日本に大洪水(8月8日)長雨に続く記録的な集中豪雨で、河川氾濫・土砂災害が続出。死者・行方不明者1357人、家屋全壊2765戸、流失3832戸に達した。写真は東京・本所の国技館前通り。

毎日新聞社

▲最後の水戸藩主・昭武、逝く(7月3日)徳川斉昭の18男で、第15代将軍・徳川慶喜の弟。東京・本所の小梅邸で死去、56歳。従一位勲一等を受けた。写真は10日の葬儀。

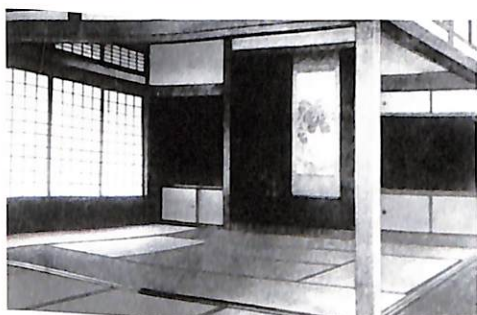
「グラヒック」

▲ブリュッセル世界博で火事(8月14日)英国館・フランス館を全焼。6月にも出火しており、災難続き。そもそも完成が開幕の1ヵ月後というお粗末ぶりだった。

「イリュストラシオン」

▶夏目漱石、「修善寺の大患」(8月24日)胃潰瘍のため伊豆・修善寺温泉の菊屋(写真)に転地療養したが、かえって悪化、危篤状態に。この頃の心境は「思ひ出す事など」に詳しい。

▼北米日本人農家の活躍(8月)排日運動の渦中、カリフォルニア州人口の0.02パーセントにすぎない彼らが、ロサンゼルス市の大半の野菜を供給。写真は日本人農協の市場。

「太陽」

▶本格的潜水艦時代が到来(8月1日)呉海軍工廠で、第10～12潜水艦を3隻同時に起工。従来の4倍の排水量、3倍の航続力を持ち、「一人前」の戦力となった。写真は翌年完成した「第12潜水艦」。

呉市企画部海事博物館推進室提供

明治43年8月

1(月)●文部省、学校長に、社会主義文書取締りを通達。
2(火)●上半期の貿易総額は前年同期比一三㌫増の約四・五億円、三〇〇〇万円の入超、と新聞に。
3(水)●東京瓦斯工業、設立。
4(木)●ケーブルカーの出願がふえている、と新聞に。
5(金)●禅道会、機関誌「禅道」を創刊(座禅が流行)。
6(土)●東京市の道路使用特別委が、目ざわりな屋上広告を撤去する方針、と新聞に。
7(日)●不当な景品つき大売出しは取締りと新聞に。
8(月)●東海・関東・東北地方に豪雨、関東一帯泥沼化。
9(火)●岡山市、妊産婦相談所を設置。
10(水)●千葉県の賭博事件で、裁判長が上告理由の一部を勝手に抹消・変造していた、と新聞に。
11(木)●独・ベルギー、アフリカ植民地の境界を画定。
12(金)●東京の深川不動で、役僧らの賽銭横領が発覚。二〇年間で総額一〇万円以上、と新聞に。
13(土)●秋田市郊外の油井で、日量七〇石の噴油。
14(日)●ブリュッセル世界博で火災、英・仏館が全焼。
15(月)●東京で、大日本自動車製造会社が貸し自動車業を開業、運転手つきで一時間五円。
16(火)●清国の南京博覧会で、電灯設備不良のため焼けた日本参考館の復旧がなり、再開館。
17(水)●「東京朝日新聞」、気候温暖で黄熱病も下火と、移民地としてのブラジルの長所を報道。
18(木)●内務省、群馬県の水害被害に対し、干米一五〇〇石、牛肉缶詰五〇〇〇貫などを寄贈。
19(金)●代議士・安藤新太郎、北極圏探検へと新聞に。
20(土)●群馬県前橋市の工兵一個大隊と歩兵第一五連隊が、災害復旧のため全力出動、と新聞に。
21(日)●水害による物価高騰、大根一本一銭が六銭、人参一本六銭が三〇銭、と新聞に。
22(月)●日本、韓国を併合。
23(火)●大阪府警が社会主義者根絶作戦、と新聞に。
24(水)●大阪府、不正な升を使用して五～七㌫余分に小作米を取り立てた地主三十余人を告発。
25(木)●京都―新舞鶴間で直通旅客列車運行開始。
26(金)●今回の水害で三井家が炊き出しに使用した米は三万俵、と新聞に。
27(土)●峰水力発電所完成、横浜電気会社に供給開始。
28(日)●コペンハーゲンで、第二インター大会開催。
29(月)●「韓国」の国号を「朝鮮」に変更する勅令公布。
30(火)●大阪婦人矯風会の「婦人ホーム」、設立以来三年間で、一一三人の相談を扱う、と新聞に。
31(水)●千葉県に蒸気鉄道免許。初の公営鉄道免許。

CORBIS・BETTMANN／PPS

▲ペンシルベニア駅舎が完成(9月8日)ニューヨークの繁華街に、高さ約11メートルのドリス式円柱84本が並ぶ、壮大な建物が誕生。設計はホワイトら。完全開業は3年後。鉄道黄金時代の記念碑となった。

▲北原白秋(25)の恋(9月)前年「邪宗門」を発表した詩壇のホープが、薄幸の隣家の人妻(23)と恋愛。2年後には、夫から姦通罪で告訴され、拘留された。

▼早川雪洲、シカゴ大のフットボール選手に(9月)後の国際スターの学生時代。大正2年、苦学して卒業。翌年、初めての主演映画「タイフーン」がヒット。一夜で大スターとなった。

毎日新聞社

▲全国学生競走会、開催(9月24日)前年の日本初マラソンに続き、雑誌「少年世界」などが3マイル・5マイルレースを上野・不忍池畔で行い、長距離走への関心が高まった。5マイルの優勝は26分30秒だった。

▶山本宣治、カナダ留学(9月)初の無産政党代議士となる青年が、苦学しながらハイスクールに入学。園芸研究を志す21歳だった。しかし翌年、父の病で帰国。三高─東京帝大動物学科の道を歩んだ。

毎日新聞社

▶第6号御召し列車が完成(10月)全長約21メートル、側面中央に菊、左右に桐の紋章を配し、明治5年以来の歴代御召し列車中、最も豪華。東京・新橋工場で完成。翌月、陸軍大演習統監に向かう天皇が乗車。

明治43年9月

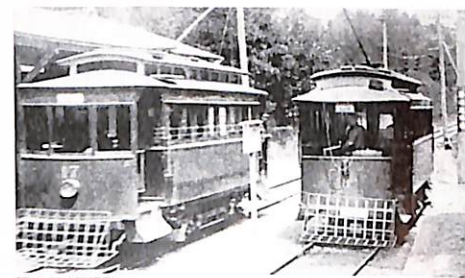
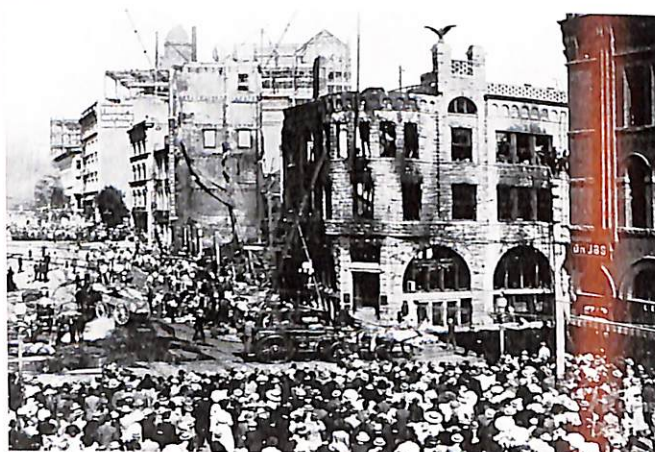
1(木)●天皇、勅語で華族の風紀を戒める。
2(金)●東京株式取引所がチェッカー採用決める、会員各社に相場を専用線で一斉通知、と新聞に。
3(土)●木下尚江著『火の柱』が発禁に。
4(日)●東京・品川名産の乾海苔、盛業だが品質が粗悪になっている、と新聞に。
5(月)●マリ・キュリーら、ラジウムの分離に成功したと仏科学アカデミーに報告。
6(火)●東京帝大学生の谷崎潤一郎・和辻哲郎ら、第二次「新思潮」を創刊。
7(水)●「東京朝日新聞」、現実主義者が多くなり人情は紙よりも薄くなった、と論説。
8(木)●日本初の山田式一号飛行船が飛行に成功。
9(金)●紡績業界、一〇月から六ヵ月間の操短を決定。
10(土)●石油の販売協定が破綻、石油市場混乱。
11(日)●第一一回独シオニスト代表者会議、パレスチナをユダヤ民族の入植地として要求。
12(月)●朝鮮駐劄憲兵条例、公布。全土に憲兵を配置。
13(火)●以前はなかった白蟻の被害が、四国各地・和歌山県などで見られるようになった、と新聞に。
14(水)●御船千鶴子の千里眼(透視)が評判となり、東京帝大の博士が立ち会って実験、話題呼ぶ。
15(木)●高村光雲らが能面保存会を設立すると新聞に。
16(金)●奈良軌道(近畿日本鉄道の前身)、設立。
17(土)●前橋市で、一府一四県連合共進会、開催。
18(日)●露文学は文芸の皮をかぶる破壊思想と新聞に。
19(月)●パリの国際会議で失業保険制度が論議される。
20(火)●姫路瓦斯、設立。
21(水)●「中外商業新報」、チェッカーを使用し、株式市況の速報を開始。
22(木)●網走線・池田─陸別間、約七七キロが開通。
23(金)●海法会議各条約、調印。海難救助規定を統一。
24(土)●日英博覧会で「ジャパンデー」。武者・提灯・仮装の大行列が喝采あびる。
25(日)●独が新型戦艦四隻で新艦隊編成、海軍力を急激に増強中、と新聞に。
26(月)●帝国教育会が、三大節・卒業式など、小学校の儀式の内容・順序統一案を作成、と新聞に。
27(火)●会津若松で、裁判傍聴中に雑談、制止無視した男に即決で懲役一年、人権問題に、と新聞に。
28(水)●郵便私書箱使用規則、制定。
29(木)●女学生の読書、徳冨蘆花の『自然と人生』が圧倒的人気、教師は「自然主義」を警戒と新聞に。
30(金)●朝鮮総督府が発足、日本の朝鮮支配が始まる。

「イリュストラシオン」

▼江ノ電全通(10月30日)明治35年から、藤沢─片瀬間で営業してきた江ノ島電気鉄道が、鎌倉まで延長。写真は大正初期。社名は数度改称、昭和56年、江ノ島電鉄に。

▲ポルトガルで革命(10月5日)ブラーガら共和主義者がリスボンで蜂起し、王政打倒。ブラーガ新政権は政教分離、貴族の廃止、スト権承認など、急進的改革を実施した。

江ノ島電鉄提供

京都市水道局提供

▲京都市、上水道敷設(10月)井戸水の水質・水量が問題となり、2年前、琵琶湖疏水を水源として着工。完成は明治45年で、日本初の急速濾過方式が採用された。

毎日新聞社

◀台湾糖業連合会、結成(10月6日)総督府主導で創業した台湾製糖を中心に、塩水港・明治・東洋・新高の5社が、輸出奨励・原糖確保などのためカルテルを結成。写真は台湾製糖の屏東工場。

▶強豪・シカゴ大野球部が来襲(10月4日)東京で行われた対早大戦を皮切りに10戦。いずれも圧勝し、実力の差を見せつけた。写真中列左端が、早慶の強打者をなで切りにしたエースのページ。

「写真タイムス」

▶ロサンゼルス・タイムズ爆破(10月1日)深夜1時、突然、大音響とともに本社ビルが崩壊・炎上。死者21人。労働運動を批判・攻撃する記事をさかんに掲載したため、組合員の恨みをかったもの。

「太陽」

明治43年10月

1(土)●パリで癌国際会議、開催。
2(日)●国語調査会が言文一致の口語辞典を本年度中に完成の予定、と新聞に。
3(月)●清朝、資政院開院式を挙行。立憲制へ一歩。
4(火)●鉄道院総裁・後藤新平、用地買収などの基本設計を、広軌化前提に行うよう指示。
5(水)●ポルトガルで革命、共和制宣言。
6(木)●東京・池之端に「東京倶楽部」完成。日本初の近代的集合住宅とされる。
7(金)●朝鮮の貴族七六人に爵位を授与。
8(土)●犬を自動車に轢き殺された飼い主が、一〇〇〇円の損害賠償請求訴訟、と新聞に。
9(日)●ミネソタ州で大規模な山火事、四〇〇人死亡。
10(月)●仏で、鉄道員がゼネスト。軍隊出動し鎮圧。
11(火)●大審院、一厘分の葉タバコを隠し持った事件で、微細で犯罪にあらずと判示(一厘裁判)。
12(水)●武器などの携帯を禁じる内務省令、公布。
13(木)●内務・農商務両省、「部落有林野」を市町村に統一帰属させるよう、各地方長官に通達。
14(金)●中部鉄道管理局、職員の娯楽・会議などのための「倶楽部」設置を決定。
15(土)●パリで航空ショーが開催される。
16(日)●逓信省は、函館港に唯一残っていた灯船を廃止、ガス式浮標に切り替える、と新聞に。
17(月)●内務省、青森市の火災復旧に四〇万円の低利融資を決定。
18(火)●臨時治水調査会、発足。長期的治水対策検討。
19(水)●内田康哉駐米大使、日米新条約案と移民問題に関する覚書を、ノックス米国務長官に提示。
20(木)●四月の法施行以来、軽便鉄道の認可が八件に。
21(金)●仏の女優・サラ・ベルナールが米国公演に出発。
22(土)●東京で、一〇歳の少女が水難救助、と新聞に。
23(日)●南洋護謨など二社が、マレーでゴム製造事業に進出する、と新聞に。
24(月)●東京女子医大の一九歳の女性が医師試験合格。
25(火)●伊で暴風雨と高潮、死者一〇〇〇人の惨事に。
26(水)●高等女学校に実科(家政科)の設置を認める。
27(木)●シカゴ大と日本各チームとの野球試合、対戦七回で入場料収入が一万円突破、と新聞に。
28(金)●鉄道院の東京・大井工場予定地、地主が予算の倍額、坪一八円を要求し起工遅延と新聞に。
29(土)●農商務省山林局に、林業試験場を設置。
30(日)●神奈川県・江ノ島電気鉄道、全線開通。
31(月)●帝国教育会、教育勅語二〇年記念式典を開催。

「イリュストラシオン」

「太陽」

▲九条武子(23)、淋しく帰国(11月)正金銀行ロンドン支店勤務の夫を残し、1年ぶり故国へ。二人はその後、大正9年まで会えず、孤愁を詠んだ処女歌集「金鈴」は世人の涙を誘った。

▲文豪・トルストイが死去(11月20日)簡素な生活という信条をまっとうしようと家出、中央ロシアの寒村の駅・アスターポボで肺炎のため死んだ。82歳だった。写真は柩を運ぶ家族。

▼久原鉱業、電気機械製作工場を建設(11月)工作課長・小平浪平を中心に国産体制を整備(後の日立製作所)。写真は同工場製の俣作、鉱山の送風機用電動機。

▲自由劇場、第3回試演で「夜の宿(どん底)」(12月2日)ゴーリキーの戯曲を小山内薫が翻案、有楽座で上演。自由劇場は前年来、翻訳劇の上演で新劇界をリードしていた。

▼井上馨の銅像除幕式(11月28日)静岡県興津の別邸で祝典が行われ、多数の来賓が出席。74歳でなお政財界に君臨する井上(左端)の力を示した。

「太陽」

▶帝国在郷軍人会、発足(11月3日)戦時の動員を容易にし、軍事思想の普及を目的とする、陸軍主導の全国組織。写真は東京偕行社で行われた発会式。

「写真タイムス」

明治43年11月

1(火)●新潟市で上水道が完成。

2(水)●江戸名所・大丸呉服店が一時閉鎖、と新聞に。

3(木)●帝国在郷軍人会、東京・九段で発会式。

4(金)●清国、三年後に国会開設と発表。

5(土)●内容証明郵便の取り扱いが始まる。

6(日)●千葉県木更津中学校生徒が校長不信で同盟休校、住民もこれを支持し県知事困惑、と新聞に。

7(月)●東京の道路改良実験、車道はアスファルトまたは木材、歩道はコンクリートで、と新聞に。

8(火)●米国・ワシントン州で、女性が投票権獲得。

9(水)●内務省技師、懸案の治水事業は拙速を避ける、最低限の工事に一〇年以上を要すると言明。

10(木)●英・米・仏・独の四国借款団、清国の鉄道投資への平等参加を協定。

11(金)●東京丸の内で女性の暴行死体発見(おつや殺し事件。迷宮入りし、一〇年後に犯人が自供)。

12(土)●漁業組合令、公布。漁業近代化めざす。

13(日)●台湾製糖が倍額増資を決めた、と新聞に。

14(月)●米国・カーチス社のテストパイロット・エリー、船上からの離陸に成功。

15(火)●農商務省、帝国農会の設立を許可。

16(水)●横浜の元町で、不二家洋菓子舗が創業。店頭で洋菓子とコーヒー・紅茶を出す。

17(木)●神奈川県警は、江ノ島・箱根などで急増中の屋外広告を全面的に規制する、と新聞に。

18(金)●山梨県の発電所工事に従事中の日朝労働者五〇〇人が、日頃の反目から衝突、六人即死。

19(土)●関東地方は一八〇年ぶりの凶年、年始から一〇月末までの晴天はわずか八六日、と新聞に。

20(日)●メキシコで、マデロらが武装蜂起、革命勃発。

21(月)●愛知電気鉄道(名鉄の前身のひとつ)、設立。

22(火)●東京・浅草公園の水族館が、経営不振で売りに出る、と新聞に。

23(水)●新時代劇協会が初公演。新派の活動に新展開。

24(木)●北米移民の成功者がふえている、と新聞に。

25(金)●中央線が全通まであと五マイル、と新聞に。

26(土)●新橋—横浜間複々線化の用地買収がほぼ終了。

27(日)●農商務省水産局、漁業調査の一環として、一二月から空き瓶を流し海流調査、と新聞に。

28(月)●各地の電気料金は、一灯定額で一円前後、東京・横浜・札幌は一円二〇銭、と新聞に。

29(火)●白瀬中尉ら南極探検隊が東京・芝浦を出帆。

30(水)●北海道の鉱物調査を開始した農商務省地質調査所、硫黄・石炭・金・銀などが有望と発表。

「グラヒック」

▲日露鉄道連絡会議開く(11月)ペテルブルグで、シベリア鉄道直通貨物運輸に関して利害調整。写真手前右から三人目が東清鉄道副社長・ウェンフェル、左隣・木下鉄道院課長。

証言・あの日この日

平出　修(32)

11月20日(日)〈パンの会と云ふ無邪気な遊び会がある、その会員中画家の一人が洋行し、文学者の一人が入営する、その送る会を開いた/入営せんとする長田君は、「自分はもう死んだものだから、挨拶は勘弁してくれ」と云うた/それを翌日の万朝報に「黒枠つきの入営祝」と題して/之は徴兵を呪ふ無政府主義的行動だと社説にまで書いて攻撃した〉(平出修「大逆事件意見書」)

弁護士であり、また歌人でもあった平出修も、この日、若手の芸術家集団「パンの会」の会合に同席していたが、明らかに「万朝報」の記事は〈断片と断片をつなぎ合わせ、之にある意味を附する〉デッチアゲ記事であった。「大逆事件」の弁護人になった平出修は、この例を引きながら「大逆事件」の被告の多くも無実であると主張するが、その主張は退けられた。(山崎行太郎)

◀石川啄木(24)、処女歌集「一握の砂」刊行(12月1日)東京時代に詠んだ哀歌など551首を収載。1首3行書きの形式も新しく、注目を集めた。写真は親友・金田一京助(左)と。

毎日新聞社

▲日本初飛行!(12月14日)陸軍歩兵大尉・日野熊蔵(写真)の乗る、独製グラーデ単葉機が、東京・代々木練兵場での滑走テストで勢いあまり、60メートル飛翔。

毎日新聞社

▲鈴木梅太郎、ビタミンB_1を発見(12月13日)脚気の予防に有効な成分を米糠の中から分離。アベリ酸と命名、その有効成分をオリザニンと呼んだ。

▶大関西ノ海(30)、結婚式(12月28日)横綱常陸山の媒酌で、華燭の典。中央が花嫁花婿。西ノ海は36歳で横綱となったが、在位5場所で引退した。

「写真タイムス」

明治43年12月

1(木)●石川啄木、歌集『一握の砂』を刊行。

2(金)●自由劇場、第三回試演でゴーリキー作・小山内薫訳の「夜の宿(どん底)」を初演。

3(土)●英総選挙で、労働党が四二議席、保守・自由二大政党の間でキャスティングボートを握る。

4(日)●神奈川県の衆議院補欠選で投票率七割の不成績。原因は接待がなかったため、と新聞に。

5(月)●貴族院議長に徳川家達を再任。

6(火)●パリで、「大逆事件」への抗議デモ。

7(水)●八幡製鉄所は年生産高約一八万トンをほぼ達成、ただし毎年の赤字は五〇万円、と新聞に。

8(木)●在モスクワ領事館の書記が、私立学校に初の日本語科を設置、無報酬で教授、と新聞に。

9(金)●"最後の将軍"徳川慶喜が隠居。

10(土)●清国外務部、英との阿片条約廃棄交渉開始を駐英清国公使に指示。

11(日)●新年向けの扇の図案、干支の猪は「首がまわらぬ」と嫌われている、と新聞に。

12(月)●鉄道院は四国の鉄道に関し、瀬戸内海沿岸線よりも徳島—高知線を優先の方針、と新聞に。

13(火)●モルガンお雪、夫とともに京都に里帰り。

14(水)●日野熊蔵大尉、日本初の飛行に成功。

15(木)●桂太郎首相、鉄道会議に、東京—下関間広軌改築費、二億三〇〇〇万円を諮詢。

16(金)●電話創業二〇年祝賀会を中央電話局で開催。

17(土)●日本郵船の株券六万円分の偽造犯を逮捕。

18(日)●和歌山市会、公娼許可を決定。

19(月)●京都府伊根村の海岸に全長一五メートルの鯨が出現、漁船数十隻で捕獲、と新聞に。

20(火)●日本自動車倶楽部、発会(会長・大隈重信)。

21(水)●綿糸業界活況、一俵一五〇円の高値と新聞に。

22(木)●福岡に九州帝国大学を新設(翌年、工科大学開設、福岡医科大学を京都帝大から移管)。

23(金)●小樽港の修築は運河を掘りこむ方式に決定。

24(土)●文部省、高等小学校の実科科目では農業・商業を重視するよう訓令。

25(日)●愛知電気鉄道、名古屋電灯と電力購入契約。

26(月)●帝国大学の授業料値上げ発表、年間五〇円に。

27(火)●朝鮮・対馬沿海に「第五海軍区」を設定。

28(水)●銚子のサンマが豊漁、浜相場は一尾六厘。

29(木)●北海道庁、翌年度の官林解除地(開拓用地)は約一一万町歩と発表。

30(金)●警視庁、風俗良導のため劇場取締規則を強化。

31(土)●満州の吉林方面で馬賊が勢力増大、と新聞に。

流行語 理想はなよなよ「夢二式」

「夢二式」。前年暮れ、竹久夢二の『夢二画集』が出版され、眼もとパッチリ、なよなよとした肢体の美人像が爆発的人気を集めた。以来、彼の描く女性は「夢二式」と呼ばれて、男女双方の理想となった。ただし学生などの間では理想が高すぎること、ないものねだりを、皮肉をこめてこう呼んだ。

「吉原風邪」。この年大流行した風邪で、吉原遊廓帰りの客にかかるものが多いというので、からかい半分にこう呼ばれた。高熱を発し、死亡率も高かったが、「吉原風邪」と言われることをいさぎよしとせず、手遅れになるものもいた。

「唯美主義」。芸術的主張のひとつで、美を絶対至上の目的とすること。この年出版された谷崎潤一郎の『刺青』や、前年に出版され発禁になった永井荷風の『ふらんす物語』などがきっかけで、文学青年の間で使われ始めた。

「銀杏本」。この年、現在の文庫本サイズの袖珍本が大ヒット。表紙に銀杏の葉が散らしてあったところから、こう呼ばれた。さらに銀杏本は洒落ているという意味で、洒落たものの代名詞としても広がった。

◀東京の柳橋、日本橋、洲崎などの幇間40人余は、この年7月20日、角筈の十二社に詣で、社頭で「かっぽれ」を踊った。「写真タイムス」

結婚 「金色夜叉」にも登場 出世男の純愛美談

福島県における女性愛の圧巻は、明治四三年に知事になった西久保弘道である。尾崎紅葉の名作『金色夜叉』に出てくる荒尾譲介のモデルで、村上浪六の代表作『当世五人男』のモデルでもある。

西久保は苦労して東京帝大法科に入るが、卒業間際、根岸遊廓の遊女・みさ子を熱愛した。そのため帝大を追われ、父から勘当されるが、彼はいっさいの忠告を拒んで、みさ子と結婚。身請け金などで、六年にわたって高利貸に苦しめられた。

見かねたみさ子は単身、西久保の父を佐賀に訪ねるが、そこで奇跡が起こった。「遊女如きが……」と嫌悪していた父は、彼女の清楚端整な挙措に感動、「これこそ理想の嫁」と、田畑を売り払って借金を整理してくれたのである。復学した西久保は知事から貴族院議員と出世、二人は最も仲睦まじい夫婦として評判だった。

（「福島民友新聞」昭和六二年一月二二日）

CM100年

ポスター「サッポロビール」（サッポロビール）◀わが国初のヌードポスターと言われている作品。

▲◀飯沢天羊画「軍事演習」。宇都宮で行われた軍事演習をテーマに、農民たちの哀れさを描いた。「驚倒漫画」に掲載された作品である。

日本漫画資料館

データ 「ポチ」は明治の昔から当世、犬の名前調べ

家庭で飼われている犬にはどんな名前がつけられているか？　東京市中の一六〇頭余について調べたところ、次のような結果を得た

1ポチ＝一五、2ジョン＝一三、3マル＝一一、4クロ＝一〇、5アカ＝八、6ポーチ＝七、7チイ、ポチ＝六、8チン、タマ、シロ、ハチ＝五、9カメ、チビ、ペス、マメ、エス＝三、10ポース、チヤコ、ヤマ、ミス、ベル、レオン、オロチョン＝二。

ほかはひとつずつだった。

（「東京朝日新聞」七月三日）

三面記事 座席は別料金!?　電車珍談

〔大阪発〕今日、阪急電車前（現・阪急梅田駅前）の大雑踏を我々は当然のごとく受けとめている。しかし明治四三年、阪急の玄関口が初めてできた時は、そうではなかった。そこに吐き出されてくる乗客は、一電車に五人か七人くらい。それも田舎の人だから、車内が油できれいにふいてあるからと、下駄や草履を入り口にぬいで、そのまま車内に入ってきた。また座席に腰をかけると料金を高く取られると固く信じていて、車掌がどんなに勧めてもけっして座ろうとしなかった。

一方、大阪から乗る人は箕面、宝塚などの桜をめで、紅葉狩りの気分を楽しもうという人々。そのほとんどは奥様やお嬢様が女中や男衆をお供につれて出かけるもので、車内に乗りこむや否や持ってきた重箱を広げ、酒盛りをしながら「ええ景色だんなあ」と悦に入って、窓外の景色を眺めていた。

（「大阪毎日新聞」昭和四年一月一八日）

▶この年一〇月二五日に発売された刻みタバコ「なでしこ」。各種の口つきタバコと並んで、人気があった。

文化 肩が“はる”から“こる”へ 第一号使用は夏目漱石？

肩がこるという言葉は明治以前にはなかった。肩がつかえる、あるいは肩がはるといい、明治になっても初めの頃は肩がはると表現していた。

肩がこるという表現が文学作品に登場するのは、夏目漱石が明治四三年に書いた『門』が初めてと思われる。

「宗助が指で圧してみると、御米の頸と肩の継目の少し背中へ寄った局部が石の様に凝っていた」

とある。おそらくこの頃、肩がはるが肩がこるに変わり、大正初め頃になって肩こりという名詞で表現されるようになったと思われる。

（立川昭二『明治医事往来』）

▲この年3月、箕面有馬電気軌道（現・阪急）の梅田—宝塚間が開業。写真は当時の82人乗りボギー車。

犯罪 証拠の艶文百五十余通 人気演歌師の結婚詐欺

東京・本郷の神長源次郎（二四）といえば「書生節」の作者で、近年大いに受けているが、七日、六人の娘と同時に夫婦約束をなしたという色魔詐欺事件で、東京控訴院、今村裁判官の取り調べを受けた。

法廷には娘たちから彼のもとに寄せられた艶文百五十余通（五七人分）が並べられ、裁判官が「その方、学生の身にしてなぜにかくも多数の女をたぶらかすのか」とただしたところ、神長いわく、「だますつもりでやったのではありません。私の歌を買い求むる女は、少しでもやさしい言葉をかけると、たちまち有頂天になります。それがあまりにも純粋なので、私も心からの愛情を感じて、つい六人の娘と夫婦の約束をしてしまったのです」

（「報知新聞」四月八日）

この年の初もの ベンツのはしご車を大阪府が救助用に購入

●甘栗店　中国人の李金章と、日本人・九鬼国次郎の共同経営による「金升屋」が東京・浅草仲見世に開業。

●レンタカー　八月、東京・京橋の大日本自動車製造が貸し自動車店を開業。運転手つきで一時間五円。一時間増すごとに三円五〇銭。

●ラーメン店　東京初のラーメン店「来々軒」が浅草に開店。この店が醤油味だったため、それ以降、東京のラーメンが醤油味に。

▶明治末期にはマラソンがブーム。写真は東京高等師範での、東京・大塚から埼玉・大宮公園までの長距離走。

毎日新聞社

はやり歌

ふじの山

作詞　巌谷小波
文部省唱歌

あたまを雲の上に出し
四方の山を見おろして
かみなりさまを下にきく
ふじは日本一の山

青ぞら高くそびえたち
からだに雪のきものきて
かすみのすそをとおくひく
ふじは日本一の山

▲言文一致唱歌の普及に対し、唱歌の「気品」を守ろうとしてできた「文部省唱歌」のひとつ。作詞は巌谷小波（写真）。

われは海の子

作詞　宮原晃一郎
文部省唱歌

我は海の子白浪の
さわぐいそべの松原に
煙たなびくとまやこそ
我がなつかしき住家なれ

生れてしおに浴して
浪を子守の歌と聞き
千里寄せくる海の気を
吸いてわらべとなりにけり

高く鼻つくいその香に
不断の花のかおりあり
なぎさの松に吹く風を
いみじき楽と我は聞く

丈余のろかい操りて
行手定めぬ浪まくら
百尋千尋海の底
遊びなれたる庭広し

幾年ここにきたえたる
鉄より堅きかいなあり
吹く塩風に黒みたる
はだは赤銅さながらに

浪にただよう氷山も
来らば来れ恐れんや
海まき上ぐるたつまきも
起らば起れ驚かじ

▲明治41年の文部省新体詩懸賞募集で佳作当選した詞（別の説もある）に曲がついて、この年、文部省唱歌として、『尋常小学読本唱歌』に掲載された。

武蔵野音楽大学提供

「地球が猛毒のシアンガスに包まれる」「地球が大爆発を起こす」

コナン・ドイルも小説にした七五年ぶりの恐怖

「ハレー彗星大接近」パニック！

▲青森県八戸で時計店をいとなむかたわら、ハレー彗星の太陽面通過をしっかりととらえた在野の天文学者・前原寅吉。

一八三五年から七五年ぶりに「ハレー彗星」が地球に大接近した。有毒ガスの尾が地球を包み、人類が滅亡するとの情報に世界中は恐怖におののく。しかし、この「呪いの星」は何事も引き起こさず、長い尾を引きずりながら、はるか遠く太陽系の外へと飛び去っていった。

猛毒性のシアンガスで人類死滅という風説

一九一〇年の五月一八日から一九日にかけ、「ハレー彗星（すいせい）」の地球大接近で、全世界はパニックにおちいった。

トルコのイスタンブールでは、おびえきった数万人の市民たちがモスクや教会での礼拝に押し寄せ、メキシコでは教会からあふれた人々が山腹に集団を作り、祈りをささげていた。

災害を引き起こす「呪いの星」として語り継がれてきた「ハレー彗星」の襲来に、悲劇も相次ぎ、世界中が自殺ブームに見舞われた。また米国のカリフォルニアでは一人の男が自分で自分を磔（はりつけ）にしたり、オクラホマでは、処女を生贄（いけにえ）にする狂信的な儀式が行われているなどの噂が飛びかった。双眼鏡や望遠鏡、酸素ボンベは売り切れ、都市住民の中には、テープや布で建物の開口部をふさぎ、外の空気を遮断するものさえ現れた。

二〇世紀に入り「ハレー彗星」を初めて発見したのは、ドイツのハイデルベルク天文台のマックス・ウォルフ。前年一九〇九年の九月一二日の朝、「ふたご座」の南西から「オリオン座」北辺に近づく「ハレー彗星」を、反射望遠鏡を用いた写真撮影でとらえることに成功したのだ。

二ヵ月後の一一月一二日には、当時、東京・麻布にあった東京天文台でも、彗星のかすかな光をとらえることができた。その日には約六時間半、翌一三日には約三時間、計算された軌道を予定どおり通過する、毛髪のような彗星が天体写真に現れたのである。

一九一〇年に入り、彗星がいちだんと地球に近づくと日本での「ハレーパニック」が始まった。

「茨城県下にて彗星落下、人類死滅の迷信は、その後ますます諸方に蔓延（まんえん）し、男女老若の差別なく、一日仕事を休み、赤飯を炊（た）きて七社詣（もうで）をなす……」（「東京朝日新聞」一月二九日）

そして岐阜県では、世界の終末をおそれて自殺者まで出たのである。

世界中をパニックにおとしいれる〝科学的根拠〟もあった。二〇世紀初頭には、星の光を分析し、彗星の化学成分を明らかにすることができるようになっていた。その結果、「ハレー彗星」の尾には、猛毒性のシアンガスが含まれていることが判明、さらには、尾に含まれた大量の水素が地球の酸素を引き金に大爆発を起こすといった風説もこれに加わり、地球の終末到来とおそれられたのである。地球が毒性のエーテルのベルトに突入するという設定で書かれた、英国の作家、コナン・ドイルの『毒ガス帯』（邦訳『地球最後の日』）などは、そうした終末観の小説化であった。

二月になり、「ハレー彗星」が望遠鏡を通して肉眼で見えるようになると、人々の恐怖は募っていったが、反面、新聞記事は冷静だった。

「彗星は太陽を去る一億一八〇〇万キロ、地球を去る二三〇〇万キロの距離にあり、かつ太陽の反発力によって彗星の尾は太陽の反対、すなわち地球のほうに向けられる。しかし尾はほとんど地球の軌道には達しない」（「読売新聞」四月七日）

最接近した五月一九日には何事も起こらなかった。東京天文台には、危険の有無をたずねる電話が殺到していたが、それはまさに杞憂（きゆう）であった。

五月一九日午前一一時二二分から、五分ないし一〇分間隔で五〇分間も撮影を続けた東京天文台の写真には、何も写っていなかった。しかし、観測データの解析から、地球は「ハレー彗星」の尾の中にあったこと、彗星は太陽面を通過したことは間違いなかった。

「あの異常なパニックを引き起こした背景には『星の凶相』、つまり彗星に対する人々の根強い恐怖感がありますが、一方では、二〇世紀に入って科学的な解明が進んだことで、逆に憶測がどんどん増幅していったという点は見逃せません」

こう語るのは、博物学者の荒俣宏氏である。

探査機がつきとめたポテト形の彗星の姿

「ハレー彗星」の周期性を最初に発見したのは、イギリスの天文学者、エドモンド・ハレーである。

彼は歴史的な記録をさかのぼり、彗星の軌道を計算した結果、一五三一年、一六〇七年、そして一六八二年に見られた彗星が、約七六年間の周期で太陽のまわりを公転する星であることをつきとめたのである。一七〇五年、ハレーが四九歳の時であった。その楕円軌道を割り出すにあたっては、一四歳年上で親友の科学

▶五月二四日、パリ・モンマルトルで、ハレー彗星を見上げる人たち。フランスでも「人類死滅の可能性あり」と大騒ぎだった。

「イリュストラシオン」

▲5月、ドイツの雑誌に掲載されたマンガ。ハレー彗星が、ほかの惑星たちの間を、無謀運転で走り抜ける。

外から見たNIPPON

イスラム教徒のA・イブラヒムが強い印象を受けた「仁丹と広告」

――佐伯 修

▶女性の権利に対し、理解的な一面もあった。

帝政ロシア治下の西シベリア出身のタタール人でムスリム（イスラム教徒）のアブデュルレシト・イブラヒム（一八五七～一九四四）は、ロシア領内のムスリムの連帯と権利獲得のために活動した人物で、後にトルコのイスタンブールを拠点とし、ロシア革命では赤軍との〝共闘〟を画策、晩年は日本に招かれて、東京・代々木上原にあった「東京モスク」のイマーム（導師）として生涯を終えた。

そんなイブラヒムは、明治四二年、各国のムスリム連帯をめざしての旅の途中、日本に数ヵ月滞在している。その時の見聞をまとめ、この年イスタンブールで出版したのが、今回取り上げる『ジャポンヤ』（『イスラム世界』第一巻）である。

日本に到着したイブラヒムは、不思議なものに出会う。その第一は「リキシャ」（人力車）だったが、第二は街の諸所で哀調をおびた笛の音や呼び声をたてる盲目の男女だった。それは「アンマ」と呼ばれるマッサージ師たちだとわかったが、イブラヒムの脳裏には、トルコ語で盲人を示す「アマー」という言葉が思わずひらめいた。

また、彼は横浜の路上で、鳴り物入りの宣伝自動車と、竹馬に乗って電柱に近い背丈になって、宣伝文句のびっしり書かれた袴を身につけて歩く人物に出くわして「日本人は広告を重視する」という強い印象を抱き、東京のネオンサインの洪水を見るにおよんで、ますますその確信を強める。たとえば「仁丹」という商品の広告について、イブラヒムは若干誤解をまじえつつ言う。

「ジンタンという日本人は、ある丸薬を発明した。この丸薬は日本ではたいへん有名で、『仁丹』と呼ばれている。この人物は、広告だけで年に三十五万円もの金を使うといわれる。これは約四万リラに相当する。東京では、あらゆる通りで、この男の提督姿の広告を見ることができる。そして、いずれも夜になると色とりどりのネオンで一年中光り輝いている」（小松香織・久男訳）

後日、イブラヒムは、明治三八年に「仁丹」を売り出した森下博と列車で偶然同席する。また、彼は、大学、盲唖学校、女学校、火葬場、そのほかを見学、「徒歩主義同志会」という一種の慈善団体なども紹介している。しかし、彼の真の関心は、日本人のムスリム化、または、白人・キリスト教優位主義に対抗するための日本とイスラム世界の提携にあった。彼は多くの要人や「アジア主義者」と会見したが、あの伊藤博文にアラビア語のアラーへの讃辞を三度誦えさせたなどの逸話もある。

者、アイザック・ニュートンの「万有引力の法則と運動の法則」、つまり物体間に働く力は相互の質量の積に比例し距離の二乗に反比例するという理論が大きな影響をおよぼしていた。

ハレーは予言した。一六八二年に見られた明るい星が一七五八年のクリスマスに再び姿を現す、と。そして、予言は的中した。ハレーの死から一六年経った一七五八年のその日、予言は現実のものとなり、その星は「ハレー彗星」と名づけられたのである。

最近で、「ハレー彗星」が地球に接近したのは一九八六年二月九日。彗星の実体を観測する絶好の機会となり、日本やソ連、アメリカなどが次々と探査機を打ち上げた。とりわけ、一九八六年三月一四日、「ハレー彗星」の核（中心）から六七〇キロにまで接近したESA（ヨーロッパ宇宙機関）の探査機から送られた写真データは、この「ハレー彗星」の姿を浮きぼりにした。核は不規則なポテト形をしており、直径約一六キロ、幅約八キロ、核の表面は、クレーターに似た地形で、黒い地殻におおわれ、その割れ目からジェットを噴き出していた。そして、約五三時間で一回転していることも明らかになった。

「ハレー彗星」が今度地球に大接近するのは、二〇六一年七月二八日である。はたして、衝突の可能性はあるのだろうか。「一九一〇年の時、地球は『ハレー彗星』の尾の中にあったのですが、尾の密度は低く大気圏には影響がありませんでした。しかし彗星は〝汚れた雪だるま〟です。いつ分裂するかわからず、ジェットの反作用なども軌道に影響しますから、地球に衝突する可能性がまったくないわけではありません」

こう語るのは、国立天文台助教授の磯部琇三氏である。

▲ハレー彗星を観察するために、ベルリンの天文台に集まった人々。心中には、興味よりも不安の要素が大きかった。

往きて還らぬ

▲10月24日　山田美妙（42）
小説家。明治18年尾崎紅葉らと硯友社創設。評論、辞書編纂も手がけたが、妻の死の疑惑により、29年文壇を去る。

▲8月15日　初代桐竹紋十郎（65）
明治期を代表する浄瑠璃・人形遣い。明治10年亀松から紋十郎に改名、女形遣いとして派手な芸で人気を博す。

▲5月27日　ロベルト・コッホ（66）
独の細菌学者で、1882年結核菌を発見、1890年ツベルクリン創製。1905年にノーベル医学・生理学賞受賞。

▲10月30日　J・H・デュナン（82）
スイスの赤十字創立者。戦場での中立的救済を訴え、赤十字設立（1864年）を推進。1901年ノーベル平和賞受賞。

オリオン・プレス

▲9月2日　アンリ・ルソー（66）
仏の画家。税関吏から画家に転向。詩情あふれる幻想的な作品を描き続けた。代表作に「蛇使い」「結婚式」など。

▲8月2日　井上勝（67）
鉄道技術者、官僚。品川―横浜間、大阪―神戸間、京都―大津間を開通させた。明治23年初代鉄道庁長官。

▲2月22日　高嶺秀夫（55）
教育家。米国でペスタロッチ教育法を修得。以後日本の師範教育の確立に尽力。東京師範・女高師校長などを歴任。

▼4月21日　マーク・トウェイン（74）
米国の小説家で、『トム・ソーヤーの冒険』や『ハックルベリー・フィンの冒険』で多くのファンを持つ。

「イリュストラシオン」

▲11月9日　大塚楠緒子（35）
小説家。明治28年「くれゆく秋」で樋口一葉に次ぐ女流作家と期待される。ほかに厭戦詩「お百度詣」など。

▲12月6日　重野安繹（83）
歴史学者。帝大教授。実証的な学風で知られ、史料批判から児島高徳の存在を否定し「抹殺博士」と言われた。

▲10月1日　大和田建樹（53）
詩人、歌人、国文学者。「汽笛一声新橋を　」の「鉄道唱歌」の作詞者として著名。著書に「明治文学史」など。

▲8月13日　ナイチンゲール（90）
英の看護婦。クリミア戦争で負傷兵を手厚く看護。以後、看護婦養成などに尽力。1907年女性初の勲功章受章。

▲4月22日　荻原守衛（30）
彫刻家。明治37年パリでロダンに影響を受ける。「文覚」「北条虎吉像」などが文展に入選したが、喀血し死亡。

週刊 YEAR BOOK **日録20世紀**

第91号 12月8日(火)発売 毎週火曜日発売 講談社 定価560円 本体533円

1991［平成3年］

●**特集**
六月三日、大火砕流で四三人死亡 雲仙普賢岳、恐怖の大噴火！／「湾岸戦争」勃発！ 日本、戦費一三〇億ドル負担の構図／住銀、野村、興銀はじめ一流が軒並み 続発する金融犯罪と「闇の紳士たち」／ゴルバチョフの思惑を超えて事態進展 世界が仰天した「ソ連邦」消滅！

●**ニュース・ファイル**
フォト＋日録で再現する365日…南ア大統領、アパルトヘイト撤廃宣言（2月1日）／牛肉、オレンジの輸入自由化実施（4月1日）／フィリピンのピナツボ火山噴火（6月9日）／小錦、婚約（7月23日）／秋篠宮家に長女誕生（10月23日）／韓国の元従軍慰安婦、日本を提訴（12月6日）

●**人物クローズアップ**
貴乃花光司、横綱千代の富士に完勝！

●**決定的瞬間**
スー・チー女史、ノーベル賞受賞

●**美の出会い**
〝クリストの傘〟三一〇〇本が開く！

●**女たちの肖像**…宮沢りえ『Santa Fe』発売！／**勝者・敗者**…辰吉丈一郎、八戦目で世界王者に／**証言・あの日この日**…小田島雄志、天野祐吉／**「現場」を歩く**…難波、大阪球場の〝さよなら〟イベント／**20世紀博物館**…小樽ヴェネツィア美術館（北海道）／**外から見たNIPPON**…「南方特別留学生」の回想のヒロシマ

●**ベストセラー**…『もものかんづめ』／**スターと名場面**…「おもひでぽろぽろ」「息子」／**モノ語り'91**…「カルピスウォーター」「画王」

ミニ事典

1910年のキーワード

錦璦鉄道

日露が既得権を持つ満鉄・東清鉄道に対抗するため、清・米・英が計画し、予備契約まで結ばれた鉄道。錦州―璦琿間を、満鉄に並行し、チチハルで東清鉄道を横断、アムール川にいたるという計画だった。日露はこれに強く反対、一月二八日、日本は清国に警告を発し、後、仏英も同盟関係から日露の主張に同調したため、敷設は実現しなかった。

発明館

工業所有権保護協会（会長・清浦奎吾）が、東京・銀座に設けた発明・考案品の展示所。発明家を保護・育成し、発明・考案の進歩、発達をうながすため、特許品、意匠登録品、実用新案登録品および参考品を出展・即売。三月二〇日に開館式が行われ、機械、染織物、装身具、文具、家具、玩具など一三一人による三七五点の作品が出品された。出品の権利は協会員五円、その他一〇円だった。

タングステン電球

フィラメントにタングステンを使った電球。米国のゼネラル・エレクトリック（GE）社のクーリッジが三月に発明。それまでの炭素フィラメントが、もろくてすぐ切れたのに比べ、タングステン・フィラメントは光が自然光に近いうえ、寿命が長かった。GEは特許を取り、ゾロアスター教の主神の名、「マズダ」を商標に世界中に販売。日本では、東京芝浦電気が翌年から製造を開始した。

▲タングステン電球の宣伝ポスター。

東京フィルハーモニー会

マクドナルド英国大使、大隈重信、岩崎小弥太らの後援で組織された、西洋音楽を普及させる会。四月三日、東京音楽学校で第一回音楽演奏会を開催。作曲家の本居長世が、自作の「数え歌」を洋楽仕立てでピアノ演奏するなど、和洋混淆の新鮮な試みを紹介。六月には有楽座で、三浦環の独唱などを中心に第二回演奏会を開いた。

拓殖局

内閣総理大臣直属の、外地統治のための一元的統轄機関。六月二二日に公布された勅令により設置。台湾、樺太（サハリン）、韓国、関東州に関する、外交をのぞくいっさいの事項が対象。総裁に桂太郎首相、副総裁に後藤新平が就任。このほか部長二人、書記官四人、秘書官一人、翻訳官二人、局員・通訳二八人をおいた。大正二年、行政整理により廃止。後、統廃合を繰り返し、昭和四年の拓務省に継承された。

毎日新聞社
▲日本の植民地支配を象徴する、台湾総督府の壮麗な建物。

第二回日露協約

日本とロシアが、双方の「満州（中国東北部）」の特殊権益を尊重し、その維持・発展について相互協力を確認し合った協約。七月四日、ロシアの首都・ペテルブルグで調印。第一回の協約が双方の権益を確認し合っただけなのに対し、鉄道の連絡業務の協調を定め、秘密協定で、両国の特殊権益が第三国に侵害されるおそれがある時は共同行動をとるなどを記し、より踏みこんだ内容になった。「第三国」とは米国である。

華族の風紀を戒める勅語

九月一日、天皇が公爵・徳川慶喜ら華族総代を宮中に召して発した勅語。「華族は士民の上に位す。力めて世の儀表たるべし。常に言行を慎み、敢えて失墜することなきを期せよ」などとあった。日露戦争後、全土に快楽主義が蔓延。藤堂伯爵が二重結婚まがいのスキャンダルを起こすなど、華族社会の弛緩も目にあまるものがあった。勅語は、こうした風潮にくさびを打とうとしたものだった。

一厘裁判

価格にして一厘の葉タバコを私的に消費したというような、ささいな反法行為は犯罪にならないとして、大審院が一〇月一一日に下した判決。明治・大正期の名裁判官と言われた横田秀雄の扱った裁判のひとつ。栃木県那須郡の葉タバコ耕作者が量目七分ほどを隠匿したところ、収税吏に訴えられた。一審は無罪。ところが検事が控訴、二審は被告に罰金一〇円を科し、今度は弁護団が上告、大審院が決着をつけた。

奈良原式飛行機

横須賀海軍工廠に勤務していた技士・奈良原三次が開発した飛行機。三気筒二五馬力の発動機のみ、フランスから輸入。上翼一一・三、下翼九・三〇、全長七・二メートル。一〇月二四日、東京・戸山ケ原練兵場で、一号機により飛行実験開始。地上滑走だけで終わった。しかし翌年五月、所沢飛行場で二号機を高度約四メートル、距離六〇メートル飛行させることに成功。国産機初の飛行記録となった。

▲奈良原式1号機の公開飛行試験。軍の実験と違い、観衆が機体のすぐ近くに集まっている。

帝国農会

市町村―郡―道府県と形成された系統農会の中央機関。三月に公布された農会法改正により、一一月一五日設立。農業技術の改良を主目的とした大日本農会、農政問題を中心とした全国農事会を継承・合併。日露戦争後の深刻な不況の中で、官民一体となって農業の保護、地主の利益擁護をめざした。昭和期に入ると、国の農業統制機関としての性格を次第に強め、昭和一八年、中央農業会に統合された。

売文社

文章代筆業・浮き世顧問（人生相談）などを看板に掲げた会社。社会主義者・堺利彦を社長に、一二月三一日に設立、翌年一月、東京・四谷で開業した。大杉栄、荒畑寒村、高畠素之らを社員とし、土岐善麿、杉村楚人冠らを「特約寄書家」として抱えた。彼らは毎月茶話会を持ったほか、二年後には『売文集』、大正三年に雑誌「へちまの花」を刊行、「大逆事件」後の社会主義運動の持続と再興を期した。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1910

CONTENTS

●編集
講談社総合編集局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室 茂村巨利・渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エー・ビー・シープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
ヨンハウス・ケースリー
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展
藤森雅弘 森邦久 結城順 吉田忠正

●写真協力
奥村健太郎 小森谷信治 近藤千浪 佐々木烈 但馬憲 徳川文武 平山亮 山沖徳生
「イリュストラシオン」 大塚巧芸社 オリオン・プレス CORBIS・BETTMANN 日刊自動車新聞社 HULTON GETTY PPS 平凡社 毎日新聞社 マツダ映画社 ユニフォト・プレス ROGER-VIOLLET WPS
江ノ島電鉄 京阪電鉄 松坂屋 三越資料室 森永製菓
茨城県立歴史館 京都市水道局 久能山東照宮博物館 呉市企画部海事博物館推進室 古文書複製社 三康図書館 真珠博物館 東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫 中村市立図書館 日仏会館図書室 日本玩具資料館 日本近代文学館 日本漫画資料館 ブリヂストン美術館 文化庁 松戸市戸定歴史館 武蔵野音楽大学 めがねの博物館 ライオン史料センター 早稲田大学中央図書館

週刊YEARBOOK 日録20世紀 1910
●「韓国併合条約」調印!
12月15日号
第2巻第47号 通巻90号
平成10年12月15日発行(毎週火曜日発行)
平成10年8月21日第三種郵便物認可
編集人 近藤達士
発行人 丸本進一
発行所 株式会社 講談社
発売所 会社
郵便番号112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
(編集)03-3944-1295 (販売)03-5395-3604
定価560円
本体533円
雑誌 23713-12/15
Ⓛ-2001/1/1
T1123713120564

印刷 凸版印刷株式会社　製本 大村製本株式会社